

目 次

グラビア セピア色の写真館

巻 頭 言	1
お知らせ	2～4
会 務	5～7
理事会のうごき	8～9
渉 外	10～11
保 険	12～15
学 術	16～19
母校だより	20
東京歯科大学 創立120周年記念事業	21～24
支部のうごき	25～33
ふるさと自慢	34
クラス会だより	35～36
OB会・グループ・サークルだより	37
庶務日誌	38
逝去会員	39～40
追 悼	40
へんしゅうこうき	41

(表紙 河原俊朗)

セピア色の写真館 ～思い出の一枚～

アメリカンフットボール部



写真上 前から白井, 高橋, 宮野 (昭和59年3月日大松戸グラウンドにて)

写真下 平成5年創部10周年記念試合「現役 vs OB」



昭和59年3月オールデンタル
(日大松戸グラウンドにて vs 日大歯学部)



昭和62年東京歯科大のパンフレットにクラブ紹介で撮影

アメリカンフットボール部

川又正典（昭和62年卒）先生によると昭和56年秋に大学校舎が稲毛に移った年に始まったそうである。その時に集まったのが、故白井照浩（昭和61年卒）、宮野 貴（昭和62年卒）、高橋重雄（昭和63年卒）そして川又の4人である。用具は各自で買い、それぞれの進学棟の教室に用具を保管していた。練習場所は船の公園「こじま公園」の空き地であった。

翌年の昭和57年4月に高校時代アメフト経験者の田中清貴（昭和63年卒）をはじめ6名が入部。翌58年同好会として立ち上がった。これが創設となる。部室も確保。入会者数も年々増えていき稲毛校舎の現駐車場

に練習場所を移した。

昭和60年4月、社会学の戸沢行夫先生（現亜細亜大学教授）に部長をお願い同好会から部へ申請した。そのころのテレビではNFL ジョーモンタナが活躍しアメフト人気も上昇、部員数も32名になった。昭和61年、関東医科歯科リーグにも加盟した。平成元年のオールデンタルでは3位入賞をはたし、平成5年の医科歯科リーグでの1部入れ替え戦では千葉マリスタジアムでの試合となり、関係者は入場料を支払っての有料観戦となった。

平成5年には創部10周年記念試合「現役 vs OB戦」も行われた。ギャラリーも多数見学に訪れ大いに盛り

上がった。平成6年からは花岡洋一先生（現法歯学教室准教授）が部長となった。多忙にも関わらず部員の面倒を見ていただいた。平成7年3月のオールデンタルでは決勝まで進むも、惜しくも日大松戸に敗れ準優勝となる。

時代の流れかその後は歯科大の生徒数も減少し年々部員数も減っていった。平成15年には創設20周年記念パーティーも行われた。現在、現役部員は数人となってしまった。熱い気持ちを持った若者達が集まり、アメフト部が更に飛躍することを陰ながら期待する。

(平成3年卒・太田和秀 記)



昭和58年（前列真ん中は戸沢行夫先生）



昭和60年の集合写真

— 母校創立120周年 —

先 達 の 訓 え



副会長

片 倉 恵 男

母校が創立120周年を迎えた今、改めて先達の人物像や業績を読み返す時、東京歯科大学の歴史と伝統の重みをしみじみと感じます。

高山紀齋が大変苦勞して歯科医学院を運営する中で、抜群の能力を持った血脇守之助を抜擢し、医学院の経営を委ねて自らは身を引く決断をしたことには、守之助に対する全幅の信頼と医学院の「継承と発展」への熱い思いが窺えます。

守之助が野口英世の中国赴任に際して贈ったという『世の中は五分の真味に二分狭気、あとの三分は茶目で暮らせよ』の処世訓は、艶福家でもあったという恩師紀齋の一面をみて、自ら悟った言葉ではないかと推量するのは穿ち過ぎでしょうか。

“東歯家族主義”の実践であり、“血脇イズム”の太い

柱となっていると言われているのが、大正8年の“熊さん”こと島根熊吉という小使さんの本学最初の校葬です。

68才で亡くなるまで16年間謹厳実直に勤めたことを血脇校長が認め、校葬を以って労ったとのことですが、この事実からしても『歯科医師である前に人間たれ』の教訓は、守之助の人間味を身に染みて感じるどころです。

我々が学生時代の学長福島秀策の座右銘は『周而不比』（あまねくしてひせず）でしたが、今振り返ると秀策もまた守之助の俠気や博愛・平等の精神を学び取っていただろうと思われるところが随所にあった様な気が致します。

大正12年の関東大震災で壊滅的な被害を受けた際、傷心の血脇守之助に対して贈られた野口英世の揮毫『高雅学風徹千古』は母校の理念として、また血脇イズムの1つとして、東京歯科大学同窓の全員が自覚し、常に念頭に置くべき訓えであると思います。

校歌“校旗は燦たり”は昭和2年に完成しましたが、作詞者北原白秋は「私は校歌を幾つも作ったが、こんなに感激して作ったことは今までに一度もない」と言い、作曲者山田耕筈は「私は今度の様に学生の力に動かされ、職員の熱誠に感じたことはない」と語ったそうです。如何に母校校歌の成り立ちが意味深く、素晴らしいものであるかを改めて知る思いが致します。

血脇守之助は『今今と今といふ間に今もなく今といふ間に今ぞ過ぎゆく』という揮毫も遺していますが、私はこの言葉を、時々刻々変化・発展する社会状況を的確に把握し、対処しなければならないと言う教訓でもあると認識しております。

平成24年4月には新しい「さいかち坂上校舎（仮称）」に新入生を迎え、それに合わせた移転計画が着々と進行しているとの報告を母校から受けております。

環境が整った稲毛キャンパスから水道橋への移転は、苦渋の選択だったことは想像に難くありません。法人理事会・評議員会と教授会の一大英断に対して、同窓が物心両面にわたる支援を行ない、世界に冠たる学府を築くことこそ先人への恩返しであり、東京歯科大学同窓としての矜持であると確信いたします。

今こそ同窓一丸となり“東歯イズム”を発揮する時ではないでしょうか。

[文中敬称略・東京歯科大学百年史参照]

お知らせ

理事会より

- 同窓会改革に向けて、以下の五つの項目を柱に改革を進めています。
 - 1) 支部・地域支部連合会との関係強化
 - 2) 母校との連携強化
 - 3) シンクタンク機能の推進
 - 4) 主に若手同窓会員のための研修会の開催
 - 5) 本部同窓会執行部及び評議員会の改革また具体的に実行するために、同窓会改革を検討する特別委員会を設置し、作業部会として「管理系ワーキンググループ、事業系ワーキンググループ、情報ネットワーク推進ワーキンググループ」を立ち上げ動き出しています。
詳しくはお知らせ最終欄に掲載してあります。

同窓会事業・行事

- 第38回全国ゴルフ大会
と き 平成22年9月2日(木)
ところ 神奈川県・相模原カントリークラブ・西コース
- 平成22年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と き 平成22年11月27日(土)
ところ 如水会館(千代田区一ツ橋2-1-1)
- TDC 卒後研修セミナー2010プログラム
卒研セミナー
 - No.3 はじめの一步『口腔内から何を読み、何を考えるか』～診断のプロセスを学ぼう～ 5月16日(日)
 - No.4 『歯の審美的回復』～レジンドイレクトフィリングとホワイトニング～ 6月13日(日)
 - No.5 『安全で確実なインプラントをするために』～知っておきたい知識と手技～ 7月10日(土)・11日(日)
 - No.6 『SPT の実際』～エビデンスに基づいたメンテナンスとは?～ 9月12日(日)
 - No.7 『咬合育成の基礎と臨床』～床矯正装置入門～ 10月17日(日)

問い合わせ先：東京歯科大学同窓会学術部
Tel. 03-5275-1761

地域支部連合・支部関係

- 支部長交替
平成22年1月1日付
横浜中央支部 池田嘉徳氏(昭56卒)
前支部長 加藤木健氏(昭46卒)

平成22年2月13日付

荒川支部 磯部鎬一 氏 (昭40卒)
前支部長 櫻井善忠 氏 (昭35卒)
長崎県支部 渡邊修志 氏 (昭35卒)
前支部長 田代雄二 氏 (昭38卒)

平成22年3月2日付

蒲田支部 佐藤知則 氏 (昭48卒)
前支部長 服部孝介 氏 (昭47卒)

母校関係行事・案内

●母校120周年記念行事

創立120周年記念学術講演会

第289回東京歯科大学学会

と き 平成22年5月8日(土)、9日(日)

ところ 東京国際フォーラム

創立120周年記念式典・記念講演・記念祝賀会

と き 平成22年5月22日(土)

ところ 帝国ホテル本館 孔雀東西の間

新入会員（第115期 創志会）の皆様へ

平成22年4月の新入会員121名、創志会の皆様ご卒業おめでとうございます。3月29日第103回国家試験の発表では93.4%（新卒）という国立大学に肩を並べるトップクラスの健闘ぶり誇りに思います。同窓会の新しい一員となる皆様にはこの場をお借りして歓迎の意を表します。

もっとも4月から新しい環境となり周りを振り向く余裕が皆さんにあるのか甚だ疑問でもあります。また現在の不要なまでに競争社会である歯科界に、皆さんは最弱者として放り込まれてきました。中には歯科医師国家試験という篩にかけられ早速の荒波を被ってしまった会員もいます。運よく歯科界に出られてもまた荒波が待っています。

「創志会」という命名はこのような厳しい環境に立ち向かっていく意味もあると聞きました。荒波が激しい時には、同窓の先輩には皆さんの防波堤になろうとする人もたくさんいらっしゃるはずですが、先輩を頼っても良いはずですが、皆様の船出を祝し御健闘をお祈りいたします。

6月号発行遅延のお知らせ

5月22日帝国ホテルにおいて開催される、120周年記念式典ならびに祝賀会については6月号に掲載し、会員の皆様にできるだけ早くお伝えいたしたいと考えています。しかしながら記念式典ならびに祝賀会は6月号締め切り後の取材のため、6月号の発行が7月にずれこむことも考えられます。会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしますがご理解の程よろしくお願い申し上げます。

会務アラカルト：同窓会改革に向けて

昨年の評議員会では「同窓会の機構改革」が協議題となり、執行部から提案された同窓会改革について貴重なご意見をいただきました。理事一同これらのご意見をうけとめ改革の実現を図りたいと考えております。そのためにはまず会員の先生方一人一人に今回の改革の目指すものをご理解いただくことから思っております。

改革の背景

激しい社会情勢の変化の中、新たな視点に立った発想の転換、機構改革、無駄の排除が望まれておりますが、東京歯科大学同窓会においても大山執行部は「改革と前進」の道を選べば、昨年4月、事業等検討特別委員会を設置しました。たび重なる委員会での議論、地域選出理事へのアンケート調査、メールによる情報交換など活発に行い、その結果本部同窓会改革の提案へと至りました。その提案内容は以下の通りでした。

1) 支部・地域支部連合会との関係強化

- ・「支部との情報ネットの設置」
- ・「支部の統合について」
- ・「支部未入会者対策の推進」
- ・「地域支部連合会の総会開催回数」
- ・「支部・地域支部連合会への支援」

2) 母校との連携強化

A. 短期的な計画

- ・「同窓会会長賞の拡張」
- ・「創立120周年記念事業への協力」
- ・「大学移転への協力」

B. 中長期的な計画

- ・「大学との更なる連携の強化」

3) シンクタンク機能の推進

歯科医療制度をはじめとして多彩な課題を、大学、東歯学会、地域支部連合会などの協力のもと、学術部、広報部、保険部など横断的に考究してゆくもので、理論構築や人材育成のみならず会員のアイデンティティの向上、社会参加、東京歯科大学同窓としてのプライドを高めることが期待できます。

4) 主に若手同窓会員のための研修会の開催

本部事業として、同窓会の将来を担う若手への支援を積極的に無料あ

るいは低額の受講料での研修会を企画します。臨床経験の少ない若手同窓会員が困らないように保険・医療管理・医事処理など現場的な情報を、TDC卒研で築いてきた継続管理を基として、学術情報を交えた形でカリキュラムを、年数回のコースで企画、開催します。

5) 本部同窓会執行部及び評議員会の改革

執行部改革は、事業部の再編と役員数の削減から成っています。現在事業部は、総務部、会計部、渉外部、学術部、広報部、厚生部、保険部、情報部の8部からなり、これらについて同窓会事業の機能面から見なおし、各部の統合再編成と役員数のスリム化をはかります。

そして評議員会の改革では、155人（平成21年度）の評議員数をスリム化するという事です。重要な「議決機関」として役割をもった評議員会ですが、会員数・財政・事業規模等など勘案すると規模を縮小した方がよいとし、具体的に支部選出評議員数の半減を提案しています。一方で若手離れが進む中、クラス代表評議員の数を増やすことを提案しています。

改革案の評価

これらの改革提案の背景には、①事件に端を発し、社会が新しい同窓会作りを望んでいること、②若手を中心として同窓会離れが進んできていること、③会費収入が減少していること、④大学でも水道橋移転を計画し、それに対する協力体制を考える必要が出てきたこと、⑤強力な組織づくりが必要なこと、など将来に影響を及ぼす問題がありますが、改革により少しでも問題解決の道がひらけるのでは期待されます。

評議員会においても協議題に上程

し、いろいろ貴重な意見を聴くことが出来ました。評議員会の大方の意見としては、方向性についてはよいので特別委員会を編成し、再度客観的な目で見直しながら改革に向うと良いとのことでした。

本執行部での対応

現在以下の3つを基本としてスタートしております。

- 1) 同窓会改革を検討する特別委員会を設置し、改革を検討し実現に移します。
- 2) 特別委員会の検討を円滑にするために作業部会を作ります。
- 3) 管理系ワーキンググループ（仮称）は、会計、厚生、総務、専務が中心に支部未加入、若手対策、会計見直しの問題について基本情報をまとめ、その後特別委員会とともに作業を進める予定です。

事業系ワーキンググループは、学術、保険、総務、専務が中心に、改革案で提案されたシンクタンク・若手研修会などシミュレーションをたて、実際に試行して評価のための基礎資料を作る予定です。

情報ネットワーク推進ワーキンググループでは、情報、広報、渉外、総務、専務が中心に、継続的に支部との情報交換をすすめてゆくためにパソコンによるネットワークをテスト的に始めたり、支部—地域支部連合会—本部との連携強化のための基礎データの取得、各支部の意見を集めるためにアンケートを計画しております。

おわりに

改革の熱い議論はつづきます。その都度、会員各位に分りやすく報告する予定ですので、ご意見などは是非お寄せください。

専務理事・高橋義一

会 務

東京歯科大学同窓会各種委員会委員

(平成22年1月～平成23年12月)

渉外部委員会委員

黒田百樹(S42卒) ◎加藤木健(S46卒) ○高橋哲夫(S46卒) 岡野祐三(S48卒)
成瀬健(S50卒) 宮吉正人(S60卒)

学術部委員会委員

◎藤関雅嗣(S56卒) ○荻原俊美(S58卒) ○小林慶太(S58卒) 平井基之(S59卒)
○加藤賢祐(S62卒) 木暮隆司(S62卒) 牧野寛(S62卒) 高柳篤史(H1卒)
福本恵吾(H2卒) 太田和秀(H3卒) 高橋潤一(H4卒) 花井淳一郎(H4卒)
本間敬和(H4卒) 相原一之(H5卒) 山本雅通(H6卒) 安藤友彦(H7卒)
浅田智宏(H7卒) 野村幸恵(H7卒) 浅野裕之(H9卒) 石山智香子(H9卒)
佐藤留美子(H9卒) 渋谷英介(H9卒) 石川一磨(H10卒) 橋本加代子(H10卒)
堺健太郎(H15卒) 川西慧(H18卒) 大田恵(H19卒) 高品繁行(H19卒)

広報部委員会委員

小林伯男(S40卒) 東郷幹夫(S51卒) ◎三友和夫(S54卒) ○小池修(S56卒)
古澤成博(S58卒) 尾崎圭子(S60卒) 福井雅之(S61卒) 島田篤(H3卒)

厚生部委員会委員

◎大井誠一(S53卒) ○鈴木良明(S54卒) 永井和広(S55卒) 西山潔(S57卒)
吉沢忠夫(S57卒)

厚生部委員会ゴルフ大会委員

酒井雄学(S29卒) 中井英夫(S34卒) 高宮紳一郎(S49卒) 堀正樹(S54卒)
中野正博(S55卒) 三島裕(S55卒) 大谷義之(S62卒)

保険部委員会委員

◎蛭谷剛文(S53卒) ○石原忍(S54卒) 稲葉孝夫(S57卒) 大木志朗(S58卒)
関川嘉昭(S58卒) 相庭常人(S60卒) 小筆正弘(S60卒) 高品和哉(S60卒)
山口和彦(S60卒) 加藤興一(S62卒) 高橋敬人(S62卒) 堀川晴久(S62卒)
金子久章(H2卒)

情報部委員会委員

◎細越隆夫(S58卒) ○寺田香織(S61卒) 山口雅史(H7卒) 宇佐美貴弘(H9卒)
田中千元(H9卒)

敬称略 ◎印は委員長 ○印は副委員長

新入会員(卒業生)に同窓会のオリエンテーションが実施されました



平成21年度の121名の卒業生に対する同窓会新入会員オリエンテーションが、3月24日(水)に千葉校舎第4教室で開催されました。

卒業式を翌日に控えた本年度新入会員を前に、まず高橋義一専務理事が、東京歯科大学同窓会の素晴らしさ、組織や機構等についてスライドを用いて分かりやすく説明されました。「本学の出身者は卒業時に一括して同窓会に入会する事」、「永久会員である事」、「入会後はいずれかの支部に所属しなければならない事」、また、「移動の際には速やかな届出が必要な事」等の同窓会員として知らなければならないポイントを強調され、その話を新入会員は傾くように真剣に聞いていました。

さらに、支部や支部連合そして本部との関係、それぞれの活動状況、会員懇親会などでの明るい交流風景、支部での学術及び保険講習会の

風景、楽しい旅行の写真等を画面で新入会員に紹介され、「気軽に参加してほしい。」と呼びかけられていました。そのような話を、前途洋々の若き新入会員は熱心に聴いており、周りの諸先輩一同同窓会の将来に対し心強さを感じました。

つぎに、今年度同窓会で計画中の若手向け研修会について説明して、開催希望日時や研修希望内容を尋ねたアンケートを新入会員にお願いし、その記入と一緒に個人カードに住所地等を記入して提出してもらいました。

つづいて、藤関雅嗣学術委員会委員長から学術部の活動についての紹介がありました。「東京歯科大学同窓会においては、全国の他の歯科大学に先がけ1985年より卒後研修セミナーが開催され、現在に至るまでに大変高い評価をえています。その理由は、臨床家の視線でセミ

ナーが構成されているからなのです。」と卒後研修セミナーの紹介がありました。また、学術部の幅広い学術活動の概要も紹介されました。

さらに、平井基之委員(本年度プログラム担当)より今年のセミナーの内容が紹介され、「単にどうすればよいかというのではなく、考え方に重点をおいたセミナーを目指している。」との説明がなされ、多くの新入会員の参加を呼びかけました。

オリエンテーションを通して、若き新入会員達の将来を見つめた、前向きで積極的な姿勢が感じとれました。新入会員はこれから1年間の卒直後研修を受け、その後様々な場所で歯科業に携わっていくと思いますが、東京歯科大学同窓会の仲間として、新入会員の将来の活躍を期待し、今後、お互いに協力し合って仲良くやって行きたいと感じました。

常任理事・佐々木真澄



平成22年度 新入会員(第115回卒業生)

氏 名	本 籍	氏 名	本 籍	氏 名	本 籍	氏 名	本 籍
あかさき ゆかり	(沖縄県)	かめざわ あき	(広島県)	たに お	しゅんすけ (鳥取県)	ますおか いくこ	(茨城県)
赤崎 ゆかり		亀澤 亜季		谷尾 俊輔		増岡 郁子	
あそ うと	(千葉県)	かんだ ゆうき	(群馬県)	たみや たかひろ	(東京都)	ますだ たかお	(東京都)
麻生 徹		神田 雄紀		田宮 隆弘		増田 隆雄	
あまの はな	(東京都)	きくち あきら	(栃木県)	つか しんたろう	(広島県)	まつだ ひろや	(滋賀県)
天野 花		菊地 陽		柄 慎太郎		松田 裕也	
あら いっぺい	(東京都)	きた だいち	(大阪府)	つきの わ たかし	(千葉県)	まつの たかひさ	(長野県)
新井 一平		喜田 大智		月野和 隆		松野 高久	
い いじま ゆき	(群馬県)	きたがわ ちかこ	(東京都)	てらおか ひろし	(秋田県)	みとも けいすけ	(東京都)
飯島 由貴		北川千加子		寺岡 寛		みやた まみ	(愛知県)
いぐち なおひこ	(広島県)	きむら あきよし	(東京都)	てらかわ けん	(神奈川県)	宮田 麻未	
井口 直彦		木村 昇義		寺川 堅		むらづみ ひでまさ	(広島県)
いけはた なおき	(北海道)	きむら まゆみ	(千葉県)	とうごう まさと	(千葉県)	室積 秀正	
池畑 直樹		木村真由美		とうじょう みちこ	(広島県)	もりた そういちろう	(埼玉県)
いしい なみこ	(大阪府)	きようら れいこ	(茨城県)	とうじょう 倫子		もりた そういちろう	
石井名実子		清浦 礼子		東條 倫子		もりた そういちろう	
いとう かずひろ	(茨城県)	くさなぎ あやか	(東京都)	ともむら のりこ	(奈良県)	やぎ まりこ	(山形県)
伊藤 和宏		草薙 彩花		ながい さよこ	(神奈川県)	やまもと ゆか	(長野県)
いのうえ ゆり	(山梨県)	くりた ようすけ	(東京都)	ながい さよこ		やまもと ゆか	
井上 裕梨		栗田 容輔		なかざわ ゆうき	(茨城県)	やまざき かえ	(東京都)
いのつめ ちか	(千葉県)	げんかい さえ	(東京都)	なかた えりか	(埼玉県)	やまざき かえ	
猪爪 智佳		元開 早絵		なかた えりか		やまだ あすか	(北海道)
いまむらけん たろう	(長崎県)	こいずみ あき	(福島県)	なかた えりか		やまだ あすか	
今村健太郎		小泉ちあき		なかはら まさひろ	(東京都)	やまもと みき	(徳島県)
いわた まさゆき	(岐阜県)	こごう ただし	(大阪府)	にしむら いつろう	(愛知県)	やまなか たかし	(鳥取県)
岩田 優行		小郷 直之		にしむら いつろう		やまなか たかし	
うえの たくや	(長野県)	ごとう よしてる	(千葉県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
植野 琢也		後藤 良輝		にしむら いつろう		やまなか たかし	
うえの ともこ	(長野県)	こやま あおい	(新潟県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
植野 智子		小山 葵		にしむら いつろう		やまなか たかし	
うざわ あつし	(千葉県)	さきや りょうすけ	(栃木県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
鶴澤 陸		崎谷 亮介		にしむら いつろう		やまなか たかし	
うちやま さき	(新潟県)	さとう かよこ	(大分県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
内山 沙姫		佐藤佳代子		にしむら いつろう		やまなか たかし	
うめざわ ともこ	(茨城県)	しげの けんいちろう	(長崎県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
梅澤 朋子		重野健一郎		にしむら いつろう		やまなか たかし	
うらの あやこ	(長野県)	しばや しゅうへい	(佐賀県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
浦野 絢子		澁谷 崇平		にしむら いつろう		やまなか たかし	
うりた ゆういちろう	(東京都)	しま しゅうすけ	(富山県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
瓜田雄一郎		島 秀輔		にしむら いつろう		やまなか たかし	
おおいずみ こうすけ	(埼玉県)	しみず としひろ	(東京都)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
大泉 康輔		清水 俊宏		にしむら いつろう		やまなか たかし	
おおうち ゆか	(宮崎県)	しらい りょう	(千葉県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
大内 祐香		白井 亮		にしむら いつろう		やまなか たかし	
おおた みどり	(静岡県)	すがわ ますみつ	(和歌山県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
太田 緑		須川 益充		にしむら いつろう		やまなか たかし	
おおひら たかし	(東京都)	すがわらとよ たろう	(山形県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
大平 貴士		菅原豊太郎		にしむら いつろう		やまなか たかし	
おかもと ひろゆき	(千葉県)	すずき たいき	(静岡県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
岡本 裕之		鈴木 大貴		にしむら いつろう		やまなか たかし	
おぎの たかみち	(和歌山県)	すずき たける	(宮城県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
荻野 崇真		鈴木 武尊		にしむら いつろう		やまなか たかし	
かざぎ きんご	(東京都)	たけだ ゆきひろ	(東京都)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
笠崎 真悟		武田 侑大		にしむら いつろう		やまなか たかし	
かさはら まさあき	(東京都)	たけだ ようすけ	(石川県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
笠原 正彰		竹多 要介		にしむら いつろう		やまなか たかし	
かとうく みこ	(神奈川県)	たじまさ やか	(千葉県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
加藤久美子		田嶋さやか		にしむら いつろう		やまなか たかし	
かとうな なこ	(佐賀県)	ただおか ひろき	(東京都)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
加藤菜々子		忠岡 大樹		にしむら いつろう		やまなか たかし	
かねこ ことろう	(東京都)	たつうまみ おこ	(兵庫県)	にしむら いつろう		やまなか たかし	
金子児太郎		辰馬未央子		にしむら いつろう		やまなか たかし	

以上121名

理事会のうごき

第1回理事会

平成22年1月16日(土)午後2時30分

於 特別会議室

出席 32名

議長 大山会長

会長挨拶

2年間は和衷協同で改革を進めてきた。同窓会の一部機構を変えていかなければという考えから同窓会改革に向けての提案をしたり、同窓会の基本的な考え方として現時点の状況をお知らせした。120周年に向かって大学は記念式典や移転などの企画があり、同時に寄付に関しては、一部の先生方は問題としてとらえている。各支部・支部連合会の総会に伺った折、前任期前半は反発も多かったが、後半になると話を聞いてもらえ、好意的な意見をきいた。それぞれの地区でいろいろな問題を抱えており、2年間の中で、支部の先生方のご意見をくみ上げて良い方向に向かいたい。

変革の激しい社会において、大学としても受験生の減少など深刻な問題を抱えており、同窓会としても足腰の強いものにしてゆくために、昨年評議員会で協議されたように同窓会を組織的に改造してゆかなければならないと考える。今後は地域支部連合会長との会を開いて連絡を密にしてゆきたい。また、連合会の任期もそれぞれ違うので、すぐにとということではないが、本部と同じようにあわせてもらおうと良いとも考えている。

今後の大学への支援体制としては、従前通り記念式典および移転には協力いたしたいと考えているので協力を願いたい。

黙 禱

平成21年12月12日から本日までに逝去連絡があった16名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

協 議

- 1) 副会長の委嘱と職務並びに順位について提案され承認。
- 2) 専務理事および常任理事の委嘱と職務分担と主任並びに順位について提案され、承認。

- 3) 地域選出理事の職務について提案され、承認。
- 4) 鳴神保雄氏、森岡俊介氏が顧問にとの提案がなされ、承認。

会務報告および承認

- 1) 平成21年12月14日から平成22年10月17日までの日程の報告がされ、承認。
- 2) 各部報告
 - (1) 総務部：①平成21年度評議員会において浅野氏、原氏、柳澤氏が監事に選出され、常任監事選任に関しては監事で協議の結果、原監事を常任監事に選出された旨の報告があり、承認。②支部学術講演会講師派遣交通費の支出について1件報告。③地域支部連合会会長を報告。④支部長交代について16件報告。⑤支部長退任時の感謝状・記念品の贈呈について16件報告。⑥平成22年度評議員会・定時総会について平成22年11月27日(土)如水会館を予定していることを報告。⑦平成22年度高齢会員該当者について報告。⑧平成22年度共済負担金免除会員該当者について報告。⑨平成22年度東京歯科大学同窓会事業計画について報告。⑩東京歯科大学同窓会会則について報告。⑪東京歯科大学同窓会会長表彰規約について報告。⑫東京歯科大学学年暦について報告。⑬東京歯科大学病院カルテ指導委員の推薦依頼について報告。
 - (2) 会計部：①平成21年度評議員会・定時総会経費について報告。②東京歯科大学第115回卒業証書授与式祝金について報告。③名簿作成積立金特別会計への繰り入れについて報告。④平成22年度東京歯科大学同窓会予算書について報告。⑤東京歯科大学同窓会役員並びに職員旅費規程について報告。⑥東京歯科大学同窓会時局対策費積立金会計内規について報告。⑦役員出張について報告。
 - (3) 渉外部：報告は特になし。
 - (4) 学術部：①委員会開催について報告。
 - (5) 広報部：①新しい名簿が完成し発送することの報告。②名簿作成に関わる表紙デザイン料として本年度名簿積立金会計から支出することを報告。③大学各部署への名簿配布方法について報告。
 - (6) 厚生部：①逝去会員の報告と規程により弔慰共済金を支給した旨を報告。②罹災共済金額の決定基準について報告。③東京歯科大学同窓会緊急時

歯科医師委嘱制度（案）について報告。

(7) 保険部：報告は特になし。

(8) 情報部：①前年度最終委員会について報告。

各地域選出理事報告

1) 高橋理事（東北）

① 山形県支部での支部長交替と、6月に開催予定の岩手県での地域支部連合会について報告。

2) 長久保理事（関東）

① 理事会の議題をなるべく早く頂きたいとの要望。

3) 早速理事（東京）

① 服部執行部から矢崎執行部に代わった旨の報告。

4) 飯島理事（信越）

① 保険についてきめ細かい資料を作ってもらい、同窓が厳しい時代に対応できるような目玉として努力して欲しいとの要望。

5) 宮田理事（東海）

① 愛知県から岐阜県に地域支部連合会会長が代わり9月に総会を予定している旨の報告。

6) 宮本理事（北陸）

① 支部長会があり、本部に対して機構改革をすすめてもっとスリム化して欲しいとの要望。

7) 井口理事（近畿）

① 11月に滋賀県で総会、5月に記念コンペを予定している旨の報告。

② 支部、支部連合会の問題で奈良県が壊滅状態であり、どのように対応するか支部改革のモデルケースの第一歩になるのではとの要望。

8) 山根理事（中国）

① 検討事項を前もって知らせてくれれば、地域での協議結果を理事会に持ってこられるとの要望。

9) 久保田理事（四国）

① 5月に総会を開催予定であることと支部長交替があったことを報告。

② 保険部の冊子は、地区、地方、県によって解釈が違うので全国一律に使えるものにしてほしいとの要望。

10) 濱田理事（九州）

① 10月に総会を予定している旨の報告。

② 本日の議題、次第だけでもデータとしてもらいたいとの要望。回答：情報部担当理事より理事会用、常任理事会用のメーリングリストを立ち上げることを報告。それにより各部の資料もメーリングリストで事前に送ることができること、委員会議事録もホームページに掲載していることを報告。

協議事項

1) 各種委員会委員の選出について、若い世代への継承、各部の交流を考慮して選出するなどの提案がなされ承認。選出は会長一任とし、承認が出た時点で活動を始めることとし、3月の理事会で選出結果を報告することで承認。

2) 前役員に対する記念品（議長・副議長を含む）を贈呈することの提案がなされ承認。

3) 前執行部からの引継ぎ書が配布され引き継ぐことを承認。必要に応じて前任者との引継ぎ会を開催及びその費用弁償の支給に関しても承認。

4) 「東歯関係日歯役員代議員、都道府県歯科医師会会長と同窓役員との懇談会」の開催日時場所が提案され承認。

5) 地域支部連合会会長との懇談会を5月22日(土)に開催することが提案され承認。

6) 同窓会改革に向かっての特別委員会と作業部会および情報ネットワーク推進のための部会設置について提案され承認。作業部会および情報ネットワーク推進のための部会については担当を決め作業を始めることで承認。

7) 時局問題に対応すべく各種会議の開催について提案され承認。まず次年度担当校となる全歯懇の準備を進めるための会を開催することが提案され承認。

その他

理事会では重点報告ということで協議に時間をかけ、承認が得られた事案はすぐ実行に移せるようにして欲しいとの意見があった。

東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と 同窓会役員懇談会

恒例の懇談会は，3月11日(木)第165回日歯代議員会1日目終了後に，飯田橋のホテルメトロポリタンエドモンド2階薫風の間にて開催されました。出席者は東歯関係の日歯役員3名，日歯代議員16名，同窓会本部役員18名，そして来賓として本学の熱田俊之助理事長（昭和24年卒）もご列席くださいました。

高橋義一専務理事（昭和48年卒）の司会進行で，日歯代議員会が定時に終了しましたので定刻に片倉恵男副会長（昭和39年卒）が開会の辞を述べ大山萬夫会長（昭和25年卒）より1期2年の任期終える事が出来たことに感謝している。また，会長の再任を頂いたので誠心誠意会務執行に努める所存であると述べ，本年度の懸案事項として，同窓会改革提案に対する本執行部の対応についてお話と挨拶があり，熱田俊之助理事長から大学の水道橋移転の進行状況は順調に進展しているということと，



現在の日歯役員・代議員や歴代の役員のご努力で，診療報酬改定がプラス改定になったことは感謝しているが，一開業医としてはこれで良しとは思えないので一層の努力を期待しているとのこと挨拶を頂き，公務のためご欠席でありました金子 譲学長（昭和39年卒）の代理としまして，柳澤孝彰大学院歯学研究科長であり同窓会監事（昭和46年卒）より，120周年記念式典の準備も順調に進んでいることと水道橋移転の問題については，「血脇記念ホール」と「本学の史料室」に限定し，同窓の方々か



ら現在のご時世の中で，出来る範囲でご寄付を集めさせて頂きたいお話がありました。

次に，当日の出席者の紹介があり，そして報告に移り，日歯代議員会で事前質問された山下敏明代議員（昭和48年卒，静岡県）と明日質問される森原久樹代議員（昭和43年卒，鹿児島県）からご報告を頂戴しました。また佐々木真澄総務担当常任理事（昭和58年卒）から本部同窓会の会務報告と「同窓会改革提案と本部での対応」について，同窓会の近代化と機構改革をめざし「事業等特別





委員会」を立ち上げ、平成21年度評議員会で協議され方向性については了承、さらに委員会をつくり執行部と連携をとり実現に向い検討しているとの報告が資料をもとに詳細に説明されました。続いて島村 大渉外担当常任理事（昭和60年卒）より、今年度の渉外部事業計画の報告があり新しい提案として「ブロック別渉外委員会」を設置させて頂きたいという説明がありました。

引続き協議では、「本部同窓会における医政への対応について」と昨年と同じテーマですが、渉外部より新しい提案「ブロック別渉外委員会の設置」もありより具体的な意見や各地域の状況、また同窓会未入会対策の問題や今後も優秀な人材を発掘育成が大変重要であるという意見が多く出て、貴重な意見交換会になりました。

懇談会終了後の懇親会では、島村大渉外担当常任理事司会のもと、関泰忠副会長（昭和43年卒）の開会の辞、そして昨年、茨城県議会議員を辞職し同じく昨年の8月30日の総選挙で民主党北関東ブロック比例1位候補として立候補をして当選をされた川口 浩衆議院議員（昭和54年卒）からご挨拶を頂きました。「一開業医であり介護支援専門員として現場で感じた思い、皆さまの声を生かしながら国民の生活第一の政治の実現に取り組みたい」というご挨拶を力強くされました。

また川越文雄群馬県歯科医師会会長（昭和31年卒）の乾杯の発声により懇親会が終始和やかな雰囲気の中、大久保満男日歯会長、村上恵一日歯専務理事、稲垣明弘日歯常務理事とお見えになり、大久保会長のご挨拶で「今回診療報酬改定で、2.09

%アップすることができました。これは政権与党である民主党とも良い関係でいる賜であります」とのお話をなされていました。

またその直後、堤 直文日歯連盟会長、高木幹正日歯連盟理事長が、次期参議院民主党公認候補者 西村まさみ先生を伴ってお見えになり、それぞれみなさまよりご挨拶を頂きました。西村まさみ参議院候補者より「私は開業医として現場を理解している1人として歯科医師会党というつもりで頑張りたいので、ぜひ応援をお願いします」というお話を大変力強くされました。

そして恒例の鳴神保雄顧問（昭和30年卒）からユーモアに富んだ挨拶があり、名残を惜しみつつ田原邦昭総務担当常任理事（昭和45年卒）が閉会の辞を述べ終了しました。



保 険

平成22年度診療報酬改定の概要について

今改定は全体改定率を+0.19%とする10年ぶりのネットプラス改定になり、歯科においては歯科医療の充実を図る視点から+2.09%(約600億円)の改定が行われました。

実質的な増加分は、主に在宅及び障害者歯科医療と病院歯科、GPにおいては初・再診料に振り分けられることとなりましたが、不足の財源確保のため、やむなく歯管等の一部やスタディモデルが包括となりました。患者数の多い医療機関は増点が見込まれますが、歯科用金属料金の下げ等から補綴費用は実質減点となり、いくつかの技術料の改定も含め治療計画によっては医療機関として減点となる可能性も否めません。

今改定の運用をご理解いただき、治療計画の見直しをご検討するとともに、次期改定に向けて臨床現場の意見を反映させるためにも患者さんへの文書提供を推進していただきたいと存じます。

基本診療料		改定前		改定後
初診	歯科初診料	182点	→	218点
	*電子化加算	3点	→	廃止
	新：障害者歯科医療連携加算（初診時） ・施設基準の届け出が必要です	新設		100点
再診	歯科再診料	40点	→	42点
	新：*明細書発行体制等加算（再診料に加算） ・施設基準の届け出が必要です	新設		1点
	地域歯科診療支援病院歯科再診料 → 施設基準の変更あり	57点	→	69点

特掲診療料				
	*乳幼児加算 (処置・手術・歯冠修復及び欠損補綴の所定点数の50/100加算)	5歳未満	→	6歳未満
医学管理	歯科疾患管理料 →1回目の算定期間は初診日の属する月から起算して2ヵ月以内に管理計画書を提出した月に算定します 継続的な管理を必要とする歯科疾患を有する患者（歯の欠損症のみを有する患者を除く）	1回目 130点 2回目以降 110点	→	1回目より 110点
	新：歯科衛生実地指導2（月1回） ・施設基準の届け出が必要です	新設		100点
	新：診療情報提供料I（250点）に対する加算 ・障害者又は在宅患者等を文書を添えて特定施設へ紹介した場合	新設		100点
	*薬剤情報提供料の手帳記載加算 → 年齢不問	5点	→	3点
	新製有床義歯管理料（1口腔につき）	100点 1ヵ月以内 2回まで	→	150点 装着月に 1回
	有床義歯管理料	装着日より 1ヵ月から 3ヵ月まで	→	装着月の 翌月から 3ヵ月まで

	<p>新：有床義歯調整管理料（月2回まで） 義歯管理料を算定した同月において行いますが、同日には算定できません 困難加算（40点）は算定できません</p>	新設	30点											
在宅	<table border="1"> <tr> <td>歯科訪問診療料</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>同一建物居住者</td> <td>20分以上</td> <td>20分未満</td> </tr> <tr> <td>患者1人</td> <td>歯科訪問診療1・・・830点</td> <td rowspan="2">初診・再診料</td> </tr> <tr> <td>複数患者</td> <td>歯科訪問診療2・・・380点</td> </tr> </table>	歯科訪問診療料			同一建物居住者	20分以上	20分未満	患者1人	歯科訪問診療1・・・830点	初診・再診料	複数患者	歯科訪問診療2・・・380点		
	歯科訪問診療料													
	同一建物居住者	20分以上	20分未満											
	患者1人	歯科訪問診療1・・・830点	初診・再診料											
	複数患者	歯科訪問診療2・・・380点												
	周辺装置加算 → 急性対応に統合	200・50点	→ 廃止											
	*在宅患者等急性歯科疾患対応加算（急性対応）の算定要件が変更になりました →訪問先に常時携行している場合加算できます（再診時1回目算定可）			1回目 232点 2回目 90点										
	訪問歯科衛生指導料	複雑なもの 簡単なもの	350点 100点	→ 360点 → 120点										
	後期高齢者在宅療養口腔機能管理料（在口管）（月1回）		180点	→ 廃止										
	<p>新：歯科疾患在宅療養管理料（月1回） 在宅療養支援歯科診療所の場合 （口腔機能管理加算） ・施設基準の届け出が必要です 1以外の場合（施設基準の届け出をしていない医療機関）</p>	新設 新設	140点 50点											
<p>新：在宅患者歯科治療総合医療管理料（月1回） ・施設基準の届け出が必要です</p>	新設	130点 140点												
リハビリテーション	リハビリテーションにおける廃用症候群の評価 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）（1単位） リハビリテーションにおける廃用症候群の場合 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）（1単位） リハビリテーションにおける廃用症候群の場合 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）（1単位） リハビリテーションにおける廃用症候群の場合 ・施設基準の届け出が必要です	235点 新設 190点 新設 100点 新設	→ 245点 235点 → 200点 190点 → 100点 100点											
	*急性期リハビリテーション加算 ・施設基準の届け出が必要です	30点	→ 45点											
	がん患者リハビリテーション料（1単位） ・施設基準の届け出が必要です	新設	200点											
	<p>新：摂食機能療法に伴う舌接触補助床</p>	新設	2,000点											
	<p>新：摂食機能療法に伴う舌接触補助床の床副子調整（装着から1ヵ月以内に1回限り（1口腔につき））</p>	新設	120点											
	スタディモデル	50点	→ 廃止											
	<p>新：混合歯列期歯周組織検査（1口腔につき） ①歯肉の発赤・腫脹の状態②歯石の沈着状態の有無③プラークチャートを用いた検査④プロービング時の出血か歯周ポケット測定のどちらかが必要です 行われる歯周基本治療はスクーリングのみ算定できます</p>	新設	40点											

画像診断	デジタル映像化処理加算	歯科エックス線撮影の場合 歯科パノラマ断層撮影の場合 その他の場合	5点 50点 30点	→	廃止	
	新：デジタル撮影料	単純撮影 全顎撮影の場合 全顎撮影以外の場合 その他の場合 特殊撮影 歯科パノラマ撮影 パノラマ撮影以外 造影剤使用撮影	新設 新設 新設 新設 新設 新設		252点 28点 68点 182点 266点 150点	
	新：時間外（時間外、休日、深夜）の撮影・画像診断加算		新設		110点	
	投薬	処方せん様式の変更（H22年9月までは経過措置期間）			→	様式変更
		処方料の加算（抗悪性腫瘍剤処方管理加算）（月1回）		新設		70点
処方せん料の加算（抗悪性腫瘍剤処方管理加算）（月1回） ・施設基準の届け出が必要です			新設		70点	
麻酔	伝達麻酔		38点	→	42点	
	浸潤麻酔		23点	→	30点	
処置	齶蝕処置	→	う蝕処置	→	16点	
	歯髄覆罩	→	歯髄保護処置			
	非侵襲性歯髄覆罩（AIPC）	→	歯髄温存療法			
	乳幼児齶蝕薬物塗布処置	→	乳幼児う蝕薬物塗布処置	→	名称変更のみ	
	初期齶蝕小窩裂溝填塞処置	→	初期う蝕小窩裂溝填塞処置			
	楔状欠損（WSD）	→	歯質くさび状欠損			
	根管貼薬 単根管			14点		20点
	2根管			22点	→	22点
	3根管			28点		30点
	*スケーリングを同日に1/3顎以上行った場合の加算			42点	→	38点
	同一部位に対する2回目以降の歯周基本治療の算定			30/100	→	50/100
	歯周病安定期治療（SPT）			150点 125点 100点	→	300点
	新：歯周基本治療処置（月1回） 歯周基本治療を行った部位に歯周疾患の処置を行った場合に算定します 薬剤等の費用は所定点数に含まれます 歯周疾患処置を算定した月は算定できません			新設		10点
	心身医学療法（入院中の患者）			70点	→	150点
新：術後専門的口腔衛生処置（入院中の患者） ・病院歯科に係る施設基準の届け出が必要です			新設	→	80点	
手術	同一手術野の一部改定	→	同一手術野に神経移植術が含まれることとなりました			
	歯周疾患を原因としない根分岐部病変搔爬と歯根分割 →歯根分割搔爬術				260点	

	上顎洞へ陥入した歯の除去 →上顎洞陥入歯除去術	抜歯窩より行う場合 470 点 犬歯窩より行う場合 2,000 点		
	口腔底に迷入した下顎智歯の摘出 →口腔底迷入下顎智歯除去術			5,230 点
	◎各種手術		→	引き上げ
	智歯周囲炎の歯肉弁切除等	140 点	→	120 点
	頬、口唇、舌小帯形成術	450 点	→	560 点
	歯周組織再生誘導手術 (GTR) 1 次手術 ・施設基準の届け出が必要です	630 点	→	730 点
	* 歯槽骨欠損部に骨代用物質を挿入した場合の加算	新設		110 点
	* 手術時歯根面レーザー応用加算 (FOp、GTR に限る) ・施設基準の届け出が必要です	新設		40 点
歯冠修復及び欠損補綴	補綴物維持管理料 → クラウン・ブリッジ維持管理料		→	名称変更のみ
	齲蝕歯即時充填形成 → う蝕歯即時充填形成			
	齲蝕歯インレー修復形成 → う蝕歯インレー修復形成			
	* 齲蝕歯無痛的窩洞形成加算 → う蝕歯無痛的窩洞形成加算 ・施設基準の届け出が必要です	20 点		
	テンポラリークラウン →形成以前に作製しても歯冠形成を算定した日から当該補綴物を装着するまでの間に算定します			
	小児義歯の療養給付対象		→	適応症の拡大
有床義歯関連		→	引上げ	
熱可塑性樹脂有床義歯		→	引下げ	
床裏装 → 有床義歯内面適合法		→	名称変更のみ	
新：有床義歯修理における歯科技工加算 義歯を預かった日から 2 日以内に修理完了装着した場合 ・施設基準の届け出が必要です	新設			20 点
矯正	歯科矯正の療養給付対象 ・施設基準の届け出が必要です 注：歯科矯正診断料の施設基準は再提出が必要です		→	適応症の拡大
	歯科矯正の BT、床装置、保定装置		→	一部引下げ
病理診断	口腔病理診断料 (月 1 回) ・施設基準の届け出が必要です	410 点	→	組織診断料 500 点 細胞診断料 240 点
	口腔病理判断料 (月 1 回)	146 点	→	150 点

→は主な改定部分 *は加算点数 新は新規導入項目 は廃止又は引き下げ

TDC 卒後研修セミナー2009報告

近未来の歯科医療に対応する知識と技術

～良質な医療を提供するために、知っておくこと確認すること～

TDC 卒後研修セミナーは同窓会事業の一環として学術部が中心となり企画、運営を行っております。毎年そのプログラムの内容に関しては、会員の多様なニーズにお応えできるものを目指して、作り上げてきました。一方で、同窓会事業としての相応しさや、必要なものを伝え続けることを大切に配慮してまいりました。

最近同窓の先生方からのご意見として、「開催が東京ということで関東近郊の先生方に受講率が偏ってしまう。」「歴史ある本学卒業生は年齢層に幅があり、それぞれに適応したプログラムを作ってほしい。」「卒後年数の少ない先生方の技術力の低下が感じられる。若手のボトムアップをしてほしい。」など、最近の歯科事情を反映するようご意見を、数多くいただきました。また、学術部として歯科医療界が抱えている様々な問題点にも、焦点をあてていく必要性を感じております。

そこで、今回のプログラムでは、「近未来の歯科医療の備えるということ」「経験の浅い先生方のスキルアップ」という2本立てのコンセプトを掲げました。2008年までの軸となっていた臨床実技型のセミナーに加えて、卒後10年未満の先生方をターゲットとした基本技術セミナーを企画しました。さらに、フォーラムでは「歯科医療の将来に向けて」というタイトルのもとに、歯科界の方向性について検討してみることいたしました。

TDC 卒後研修セミナーはこれまで同窓以外にも受

講機会を与えており、他大学出身の歯科医師も多数受講しております。このため、受講申し込みの多い一部のセミナーでは、同窓が受講しにくい状況が見られるようになりました。

特に実技セミナーなどの実習付きのセミナーで受講定員数を増やすことができず、この傾向が強くなっています。このことは、同窓会の事業としてセミナーを運営する上で毎年問題となっております。

そこで2008年からは、同窓会の事業であることを明確にする意味で、セミナーの案内を同窓生に優先的に発送することといたしました。この効果の表れか、2008年では企画した6つのセミナーのすべてが同窓の割合が多くなりました。しかし、2009年では大きな差異は見られませんでした。(表1)

受講の動向としては、新しい企画のセミナーに対しての申し込みは早く、比較的早期に満員になってしまうのに対し、継続的に行っているセミナーは若干受講申し込み数が下る傾向があります。

多くの同窓の先生方に受け入れられるセミナーとはどのようなものなのか、また、最新の情報を提供すべく新しい企画を常に検討して行くことなど、今後の課題とさせていただきたいと感じました。

では、基本技術の修得を目的としたFOP、X線セミナーに関して、その意図は果たせていたでしょうか？

臨床実技セミナー (MTM, メタルフリー, 麻酔, エンド) については卒後10年以上の受講生割合が高

表1 2009セミナー受講生数

	受講者数	TDC 同窓	他大学
MTM	32	13	19
メタルフリー	42	22	20
麻酔	41	15	26
FOP	45	26	19
エンド	40	19	21
X線	25	12	13
合計	225	107	118

表2 2009臨床経験別受講割合

セミナー	受講者数	10年以上	10年未満
MTM	32	18	14
メタルフリー	42	31	11
麻酔	41	29	12
FOP	45	14	31
エンド	40	20	20
X線	25	8	17
合計	225	120	105

表3 過去5年間の地域別受講生数

	2009	2008	2007	2006	2005	合 計
北海道	4	2	1	4	13	24
東 北	15	11	13	16	11	66
関 東	125	171	192	213	188	877
東 海	11	10	17	16	27	81
北信越	7	12	13	5	4	41
関 西	9	12	8	12	14	55
中 国	3	4	8	10	8	33
四 国	2	3	5	8	3	21
九 州	7	4	4	2	5	26
大 学	23	15	14	14	12	65
合 計	225	244	270	300	285	1,324

かったのに対し、2つの基本技術セミナーでは卒後10年未満の受講生割合のほうが圧倒的に高くなりました。(表2) このことからある程度、企画した目的は達成されたと思われます。今後この若い先生方のスキルアップについては、同窓の先生方を対象とした何らかの対応が必要でないかと思われました。

さて、同窓からのご意見にもありました地域別受講割合について、見てみます。ご覧のように、やはり関東地区の受講率の高さが際立つ結果になりました。関東地区以外では東北地区、東海地区、といった比較的アクセスの良いところから参加いただくケースが多いようです。(表3, 4) 他大学に比べると、本学同窓の特色として、同窓が全国各地に在住していることを考慮した対応を、今後の検討課題として行きたいと思えます。

次に、セミナー開催の告知方法は適切に効果を上げているかということについて報告します。受講生へのアンケート調査から、「セミナーの開催を知った方法」たずねてみました。(表5)

その結果から、同窓会報、ホームページ、ダイレクトメールから情報を得たケースが多かったという回答を得ました。多くの同窓が、同窓会報、同窓会ホームページを情報源としていることを認識し、今後もその発信法を充実させていくことが大切であることがわかりました。内容の充実はもちろん、その情報を的確に伝えるわかりやすい内容の提供を心がけて参ります。

最後に卒研フォーラムの報告をさせていただきます。例年卒研フォーラムでは、ベテラン臨床家の匠の技や、その経験をお話いただくことで、日々の臨床にフィードバックしていただくことを目的としておりました。

表4 各5年間の地域別同窓受講者数

	2009	2008	2007	2006	2005	合 計
北海道	3	0	1	3	4	11
東 北	10	8	8	11	5	42
関 東	64	76	92	98	86	416
東 海	5	4	11	7	9	36
北信越	6	4	4	4	3	21
関 西	3	5	1	2	2	12
中 国	3	3	3	4	4	17
四 国	2	2	4	6	2	16
九 州	1	0	2	1	1	5
大 学	6	12	10	11	10	49
合 計	103	114	136	147	126	625

昨年は、歯科医療を取り巻く社会情勢を科学することから、将来に向けて何をすべきかを考え「歯科医療の将来に向けて～国民歯科医療の充実とは～」という題目を掲げ開催いたしました。大久保満男日本歯科医師会会長、本学の石井拓男千葉病院長、東京都開業の中川勝洋先生をお迎えし、講演とシンポジウムにて討論いただくという内容で開催しました。例年とは様相の異なる内容となりましたが、受講いただいた先生方からは多くの反響をいただくことができました。日頃、先生方が昨今の歯科事情に様々な思いを抱いていらっしゃるがよくわかりました。学術部委員会としても、今後も積極的に調査研究をすすめ、情報発信していく必要性を感じております。

以上、TDC 卒後研修セミナー2009について、総括的な報告をいたしました。学術部委員会では、今後も多くの同窓の方に有益な学術情報の発信と、明日からの臨床に役立ち、満足度の高いセミナーを企画してまいります。今後ともよろしく願いいたします。

(2009年プログラム委員長 牧野 寛)

表5 セミナーの開催を知った方法

セミナー	受講者数	TDC 会報 DM, HP 他	知人紹介	商業誌	その他
MTM	32	14	2	5	7
メタルフリー	42	31	0	4	2
麻酔	41	38	2	3	2
FOP	45	32	3	8	9
エンド	40	36	5	3	5
X線	25	14	2	0	7
合 計	225	165	14	23	32

卒研レポート2010

卒研フォーラム 先達に学ぶ
『開業医としての楽しみ』

東京歯科大学創立120周年の今年、最初の卒後研修は卒研フォーラムで幕を開けました。会場は何時もの血脇ホールではなく、お茶の水ニコライ堂の鐘の音がすぐ傍に聞こえる、全電通ホールで開催されました。講師は日本歯科界のオピニオンリーダーとして活躍されている、スタディグループ火曜会の金子一芳先生がお一人で1日の講演をされました。

講演会場：なぜ血脇ホールではなかったかという金子先生から「血脇ホールは使いたくない」というご要望のためだったそうです。金子先生の言い分は「まず講演会はスライドが命です。診療内容も大切ですが、それを生かすも殺すも映写画像です。撮影から保存、使用画像の制作まで気の遠くなるような時間を費やしています。スタディグループの例会以下の小さなスクリーン、低機

能のプロジェクターは絶対にごめんです。」(金子先生ブログより)と卒研に対して厳しい。また講演に対して強いこだわりをお持ちのようです。

講演内容：今回のお話は「歯医者ほど面白い仕事はない。」という内容ですと担当の委員からの紹介がありました。金子先生の講演内容は次の通りでした。

1. 戦中戦後のブランクからの開放
2. 咬合挙上・すれ違い咬合
3. テレスコープがもたらしたもの
4. 一本の歯がもつ部位特異性
5. スタディグループ活動

これらの項目がどのように関係するのか、一日の講演としてどのように関係しているのか、またなぜ面白いのか、この目次をただだけでは皆目見当が付きません。

TDC 卒後研修セミナー2010パンフレットの中で金子先生が書かれた文章には「長いようでも短かったようでもある50年、その中で何を大切にまもり、何を変えていかなければならないか、むずかしいが興味深い課題です。そんな話題を拾いながらお



話を組み立てたいと思っています。」

講演を聞いた私には、先生のお話は二つの面から組み立てられているように思えました。一つはこれまで80年近い人生の流れを、またもう一つは臨床における自分の考え方の基盤を求めていったケースプレゼンテーションです。

東京の歯科医の家に生まれ、専門学校から大学に変わったばかりの東京歯科大学、そして開業、その頃の診療室やチェアー、治療などの記録が「戦中戦後のブランクからの開放」。

講演項目2～4の「咬合挙上・すれ違い咬合」、「テレスコープがもたらしたもの」、「一本の歯がもつ部位特異性」これらのケースプレゼンテーションでは臨床を行う上での基盤を求めてきた金子先生の「道」でした。また臨床経過で「判定」し確認することがこのケースプレで続けてきたことです。

講演内容については金子一芳先生のブログにもかなり書かれてあります。詳しくはブログをお読みください。「土竜のトンネル」で検索できます。



モグラ
土竜は金子先生の「隠れ家」(別荘)に棲んでいるようです。モグラは目が見えず暗闇の中を行動する。毎日診療室に閉じこもる我々のようでもあります。金子先生の確信を求め手探りで奮闘されてきた道とも重ね合わせることもできるのではないかと考えます。

スタディグループでケースプレゼンテーションを行い、自分の考え(確信)を他の先生に批評を受け、更に大きな基盤にする。そしてこの延長線上にスタディグループの全国的な集まりである「臨床歯科を語る会」、更には外国との盛んな交流があるようです。より大きな確信となるのが金子先生の面白さなのかもしれません。

感想: 講演を聞いて以前読み齧った禅の書「無門関」(岩波文庫)の一節を思い出しました。「三百六十の骨節と八万四千の毛穴を総動員して、からだ全体を疑いの塊りにして、この無の一字に参ぜよ。昼も夜も間断なくこの問題をひっ提げなけ

ればならない。……ひとたびそういう状態が^{まくねん}驀然としてうちやぶられると、驚天動地のハタラキが現れ、まるで関羽の大刀を奪い取ったようなもので、仏に逢えば仏を殺し、祖師に逢えば祖師を殺すという勢い。この生死の世界の真っ只中で大自在を得、……」金子先生のお話は臨床の基盤を求めて全力を尽くし、自分の信じるところいかなる権威も認めないそんな自由闊達なお話に聞こえました。まさに同窓会に逢えば同窓会を殺す勢いに感じます。禅僧のよ

演者 金子一芳先生

1931年 東京生まれ
1955年 東京歯科大学卒業
同年 東京都中央区に開業

講演の時代背景

1955~1966年 歯科臨床の鎖国時代
1965~1970年の開国
1971~1975年頃 すれ違い咬合, 咬合指示開眼
1976~1980年 歯科110番事件などに



うな金子先生の一喝をこれからもご期待申し上げます。

(取材・広報部 三友和夫)

見る社会とのギャップ, 総合診断
1981~1990年 スタディグループ活動の本格化
1991~2000年 ヨーロッパを中心にした海外との交流, 火曜会40周年
2001~2010年 デジタル化本番への対応
(講演レジュメより)



母校だより

第115回 卒業証書授与式

平成22年3月25日（木）午前10時から、生憎の冷たい雨天の中、千葉校舎講堂に於いて第115回卒業証書授与式が行われた。

式のはじめに恒例の混声合唱部による校歌斉唱があり、司会の佐藤亨学生部長の開式の辞に続き、参列者一同の「君が代」の斉唱で開式された。

続いて薬師寺 仁副学長から「現在、本学に在籍する学生は814名であり、本日卒業証書を授与される者はその内の121名、大学設置以来の卒業生を合わせると8,222名、専門学校設置以来の卒業生を合わせると14,235名で、高山歯科医学院創立以来の通算卒業生数は14,526名になる。」旨の学事報告の後、小田 豊教務部長の呼名により卒業生一人一人が登壇し、金子 讓学長から卒業証書が授与された。今回初の試みとして、舞台脇に大型スクリーンが設置され、卒業生が卒業証書を授与される瞬間の表情が会場に流され、各自の緊張の面持ちから笑顔まで、手に取るように分かるように配慮された。続く褒賞の授与では、学長賞、血脇賞、井上 裕賞、精勤賞、卒業論文賞が授与された。（受賞者は文末に記載）

続いて金子学長は告示の中で、「今年は創立120周年の記念の年であるとともに、学長職が皆さんの入学の年から始まり今年2期目の任期が切れることで、とても思い出深い学年である。また、CBT、OSCEが本格的に導入された学年であり、試験に追い立てられつつも、歯科学生総合体育大会では順次順位を上げており、それなりに学生生活を有意義に過ごしてきたことは意味深い。今後は試験のように評価が明確なものではなく、診療も出来て当たり前、失敗は許されず、大学で学んで得た知識、理論が実態とずれていることで悩まされるかもしれないが、その理

由がどこにあるのか考察する習慣、研究マインドを身につけて、将来の変化にシなやかに対応して己の志に向かって行ってほしい。」と述べ、成功のための秘訣「精神は大胆に、段取りは繊細に」という福澤諭吉の言葉を引用し、「皆さんの職業は「他と共に生きることが自分を生かす」崇高な本質を持っているので、今後とも精進してほしい。」と述べられた。

また、来賓の祝辞で熱田俊之助理事長は、「皆さんは卒業にあたり、自らの意思と努力で階段をひとつ上ったことを実感しているだろう。」とした上で、「卒業はひとつの区切りであるが、到達点ではなく、人生行路においてはひとつの通過点であり、本学で学んだことに自信と誇りを持って人生を歩んでほしい。」と述べ、「人望を得る為には、1. 難解な用語ではなく分かりやすい表現をせよ。2. 顔色容貌を快活にせよ。3. 専門だけに閉じこまらず、色々な人と交際せよ。」という福澤諭吉の言葉を引用、「常に謙虚さを失わず、活発な才気と正直な本心の徳義とを持って、創造的な自己を確立してほしい。」と述べられた。

奇しくも理事長と学長のお二人が、本学と同じく長い歴史を持ち、先般創立150周年を迎えた慶応義塾の創始者、福澤諭吉の言葉を引用していたのが印象的であった。

続いて大山萬夫同窓会長は、「日



本人の平均寿命が年々延びており、国民は健康志向が強く、歯科医療に対する関心も非常に高い。口腔を包括した全身への健康管理が望まれており、今後全人的医療の確立を目的として、日々の診療に対応していただきたい。昨今日本の経済も非常に厳しい状況であるが、血脇先生の「歯科医師たる前に人間たれ」を座右の銘として、良心と尊厳とを持って歯科医療を愛して貫徹してほしい。必ず道は明るく広く展開するものと確信している。」と祝辞を述べられた。

続いて在校生を代表して黄地健仁君（5年生）から送辞、卒業生を代表して三友啓介君から答辞が述べられた後、出席者全員で校歌を斉唱して厳粛かつ感動的な卒業証書授与式を閉会した。

受賞者一覧

学 長 賞：三友啓介

血 脇 賞：大平貴士、栗田容輔、井上裕梨、大泉康輔

井上 裕賞：大平貴士

精 勤 賞：大平貴士、井上裕梨、小山 葵、林 宰央、菊地 陽、
島 秀輔、井口直彦、木村真由美、梅澤朋子、金子児太郎、
元開早絵、吉田光孝、白井 亮、澁谷崇平

卒業論文賞：中田江利加、宮田麻未、室積秀正、吉田雅康、木村真由美、
増岡郁子、草薙彩花、菅原豊太郎、辰馬未央子、山崎加恵、
菊地 陽、飯島由貴、笠崎真悟、内山沙姫、須川益充、
清水俊宏、鈴木大貴、矢島由香、大平貴士、鶴澤 陸、
井上裕梨

東京歯科大学 創立120周年記念事業

東京歯科大学120周年記念事業学長座談会

日 時：平成22年3月8日

場 所：法人事務局5階 役員室

出席者

金子 讓 東京歯科大学学長

大山萬夫 東京歯科大学同窓会会長

高橋義一 東京歯科大学同窓会専務理事



【はじめに】

高橋 一昨年の7月、昨年の6月に東京歯科大学創立120周年記念事業をテーマに金子学長と大山同窓会長との座談会が行われ、同窓会報2008年8月号、2009年8月号に掲載してきました。それから1年、記念事業や水道橋移転計画も着々と進んでいるようで、多くの同窓会員の目が集まるところです。大山会長の下にもいろいろな形で質問や心配などが寄せられていますので、このあたりも本日の座談会でお聞きしたいと思います。

大山 金子学長には公務ご多忙の中、お時間を頂きありがとうございます。よろしくお願ひします。ところどころ会員からの声も交えながらお聞きしていきたいと思ひます。

金子 よろしくお願ひします。内容の一部は前回、前々回での座談会で

お話ししたことの繰り返しになる部分もありますが、おさらいということでご了承ください。

【創立120周年記念事業について】

高橋 大学創立120周年記念事業全般につきまして、この同窓会報が会員の先生方のお手元に届く頃はもう間近かと思いますが、現状をお聞かせ頂けますでしょうか。

金子 式典、祝賀会、学術講演会、それぞれ準備の方は順調に進めているところです。同窓会員の皆様から多数の参加ご希望を頂いております。式典・祝賀会は5月22日(土)に開催いたしますが、100周年の式典・祝賀会とはまた趣向を変え、記憶に残る式典にしたいと思ひます。

大山 日程的に最初の行事は学術講演会でしたね。

金子 はい。5月8日(土)、9日(日)

に東京国際フォーラムで120周年記念学術講演会を開催します。これは第289回東京歯科大学学会を兼ねているものです。プログラム内にはウィーン少年合唱団のコンサートもありますので、是非こちらにも足を運んでいただけると幸いです。

【移転計画の現況】

大山 さて、水道橋移転ですが、現在ではかなり進んできていると思ひます。同窓の関心も非常に高いと感じておりますが、現在の状況をお聞かせ頂けますか。

金子 前置きとして、現時点でお話しできる内容は、昨年11月までに完了した基本計画段階のものであることをご了承ください。現在までの約4ヶ月間で詳細な作業を進めてきておりますが、その内容については再度学内の諸手続きを経た上で、随時

公開して行きたいと考えております。

高橋 他の学校を卒業した先生から、いつ戻ってくるのかとよく聞かれます。スケジュールはどのような想定でしょうか。

金子 今の想定では、平成24年4月にさいかち坂校舎が開校し、新入生が入学します。翌平成25年4月にはリパーク駐車場跡地の水道橋校舎新館と、TDCビルの改修工事が同時に完了し、利用を開始する予定です。

大山 さいかち坂、リパーク駐車場、TDCビルの3校舎ですが、学年によって使う校舎が違ってくるとい話でした。どのように使い分けるのでしょうか。

金子 さいかち坂校舎は1、2年生が、リパーク駐車場跡地の水道橋校舎新館は3、4、6年生が利用します。TDCビルは病院がありますので、臨床実習が主体となる5年生が主に使うこととなります。ただ、文部科学省、厚生労働省共に臨床実習の重要性を再確認してきており、将来的には6年生も臨床実習を行うカリキュラムが要請されるかもしれませんので、それには対応できるように検討をします。基本的には授業による校舎間の移動を行わなくて済むよう、施設とカリキュラムを整備したいと考えています。

大山 稲毛の校舎と比較して大分狭いのではないかと、学生に十分な教育をしてあげられるかどうかを心配されている会員もいます。

金子 教育面、つまり教室や実習室は、稲毛の校舎と遜色ないものを用意したいと考えています。もちろん、都心の真ん中に3万坪の土地を用意することは非現実的ですので、大学の土地や建物だけを比較すれば狭くなります。ですが、コンパクトで機能的な校舎に加え、近隣にある研究施設や公共施設、他大学などの

機能を含めて総合的に考えれば、むしろ時代の要請に合致した、よりよい教育が出来ると思っています。

大山 これらの校舎はどのようなものになるのでしょうか。優秀な学生を集めるといことで、若い人にとって魅力的でひきつけるものを備えているのではと思いますが。

金子 さいかち坂校舎も水道橋校舎新館もそうですが、千葉校舎を水道橋に再現しようとは考えていません。例えば、水道橋旧校舎をよくご存知の皆様には改めて説明するまでもないと思いますが、水道橋周辺の飲食店は、千葉校舎周辺と比較するまでもないほど多彩です。すると必然的に食堂の必要性は千葉校舎よりも低くなります。水道橋という街全体がキャンパスであり、機能を外部で容易に補完できる環境を最大限に活用する。但し、学生の講義や実習は大学の本業ですので、そこには支障の出ないように。このようなコンセプトで各建物を検討しています。

高橋 学生の人数はどれくらいを想定していますか。

金子 今現在の、本学の入学定員が140名、募集人員が128名です。定員を増やすことは期待できません。逆に国立大学歯学部は一律で定員を削減しますので、次は私立大学がどうするのか、という話になってきます。歯科大学の定員問題とは、日本の人口構成の変化と歯科医師需給という社会構造的な問題ですので、容易に解決するものではありません。ですので、今後の定員削減の動きも踏まえた上で、1学年150人を収容できる想定で計画しています。

大山 同窓にとって大きな話題ではないのでしょうか。また、同窓が使えるサロンのような施設が出来ないかなどの声もありますが、そのような予定はありますか。

金子 同窓会室は当面 TDC ビルの隣接ビルに配置させて頂きたいと考えています。同窓が集う施設は欧米の大学にもよくありますね。昔の水道橋校舎にも地下にありました。同窓会室も含め、2次計画の中で検討していきたいと思います。

高橋 グラウンドは稲毛を使うのでしょうか。

金子 大学設置基準という文部科学省令において、大学はグラウンドを持たなければならない、と定められておりますので、短期的には稲毛のグラウンドを保持する想定です。ただ、東京には近隣の体育関連施設が多数ありますので、実際の授業や課外活動ではそれらを活用することも十分考えられます。中長期的には、現在市川総合病院近くに学校法人が所有している土地の有効活用も検討しています。

大山 千葉病院の今後に関心を持たれている方も多いようです。将来構想についてお聞かせ頂けますか。

金子 現在の地域歯科医療において千葉病院が担っている役割、責任がありますので、大学が移転すると言っても、それらを継続して担い続けられるような体制を整備するつもりです。当面は今の患者さんに迷惑をかけないような診療体制を維持しつつ、地域で期待されている役割を整理して、最終的には口腔外科や障がい者歯科など、特定の分野に特化していくことになるだろうと推測しています。

高橋 関連して、稲毛を部分的に水道橋と平行して運営していくとなると、財政的に大丈夫なのかという声が多く届いていますが、いかがでしょうか。

金子 水道橋に回帰する大学機能にしても、千葉に残る病院機能にしても、現状をそのまま維持するわけにはいかないと考えています。稲毛移

転当時は日本経済も右肩上がりが続く安定成長期でしたし、歯科医師需給問題が顕在化しておらず、学生募集人員は160人でした。先ほどもありましたように、現在は128名です。当時と同じ考えでは大学運営が成り立たない時代になっているわけです。ですので、現在の社会情勢と将来的な予測を元に、身の丈に合ったサイズに再構築し、コンパクトで強い組織作りをしなければ、大学間の競争に勝ち残っていけないという強い危機感を持っています。大丈夫なのか、というご懸念に対しては、大丈夫にするために再構築する、というお答えをしたいと思います。

【寄付金について】

大山 会員の関心ごとの中で、もう一つ大きいものは、やはり寄付金はどうなるのか、ということのようです。同窓会としても母校愛のもと、会員一同協力できるような雰囲気作りをしていきます。一方で大きな問題として、各診療所医業収支の悪化があります。そのような状況の中で、この同窓会報が会員のお手元に届く頃にはお願いが既に行っているかもしれませんが、寄付金の計画がどのようなものか、大枠でお話し頂けますでしょうか。また、同窓会に対する募金の目標額は5億円ということを言われていますが、一人の同窓あたりどのくらいを期待されているのでしょうか。

金子 寄付の精神というものは欧米では確固たる思想として文化の根底にあるものですが、なかなか日本では馴染みづらいたとも言われています。寄付を募る側である大学がこのようなことを説明するのは厚顔だと思われる向きもあろうかと思いますが、誤解を生まないように敢えてお話ししたいと思います。まず、当たり前のことではありますが、寄付は

税金ではありませんので同窓お一人あたりいくら払ってください、というお願いの仕方はしません。日本経済や歯科界の状況が従前と比べて非常に厳しいことも身に染みて重々承知しています。ただ、寄付の募集というのは一つの大きな事業ですので、目標額も一口金額も定めずただ頂けるだけ頂くというような杜撰な計画では行えません。そこで、本学同窓の気持ちが集約できるのは、建学者の血協守之助先生とその精神であろうと私は思っておりますので、新しい血協記念ホール及び資料室の建築及び備品等の整備にかかるであろう、5億円を寄付の目標金額とし、一口金額を2万円とした次第です。同窓の皆様が大学の計画にご賛同頂き、応援してやろうという気持ちで寄付をして頂けるのであれば、それは大学にとって非常に大きな力になり、大きな喜びです。

大山 以前お話があったように、名前を刻んだプレートを作り血協ホールの椅子に張るとか、寄付に協力してくれた同窓の気持ちにはどのようにお応えできるでしょうか。

金子 これは具体的なホールの整備計画にも関連してきますので、現時点では明確な形でお答えできませんが、どのような形であれ、ご寄付頂いた方への顕彰を疎かにするつもりはございません。金額もさることながら、ご賛同頂ける気持ちが大学にとっては非常に有難いものです。そういう意味におきましても、一部の同窓からだけということではなく、広くご賛同頂けることを目標に掲げたいと考えています。

高橋 大学の移転や募金に対して、まだ良く理解できていないという会員が、意外と色々な地区にいることに気づきます。同窓会もなおいっそう説明とご理解のお願いをしていき

ますが、大学として各地区に回るなどの計画はありますか。

金子 そうですね。これまでも様々な支部からご招待を頂き、計画について説明をして参りましたが、今後も機会を頂きながら、積極的に伺いたいと思っています。

大山 これは120周年記念事業や移転計画だけに関係する話ではありませんが、同窓にとっての東京歯科大学、あるいは大学にとっての同窓、この関係について、学生を送り出す大学人としてどのように感じられているかお聞かせください。

金子 歯科大学における卒業大学と同窓生との関係というのは、一般の大学に比べると非常に濃密です。特に、歴史と伝統を誇る本学の場合はなおさらであると断言できますが、一方でステークホルダーという観点から見ると、どうしても大学としては学納金を頂いている学生及びそのご父兄、患者さんや保険料を負担している国民の皆様の方向を向かざるを得ません。ただ、国家試験の合格率や競争的補助金の獲得状況、質の高い医療などで常に一流大学を目指し、同窓の皆様が胸を張って東京歯科大学卒であると誇れるように努力し続けることが大学執行部の責務であり、大学を応援して頂いている同窓の皆様への恩返しであろうと思っています。

【会員からの声】

高橋 ここからは、会員から上がった声を中心に、大学のお考えをお聞きして行きたいと思っています。まず、移転により優秀な学生が集まるかどうか。むしろ稲毛のまま、学費を下げた方が良いのでは、との意見があるようですが。

金子 学費低額化の問題は国立大学と私立大学の格差の問題にも繋がりますし、現在私立の医学部では低額

化の傾向にあることを踏まえ、将来的には避けて通れない問題であると思います。ただ、大学運営に責任を持つ立場としては、学費を下げることをよく考えなければなりません。少々財務的な話になりますが、例えば病院や診療所の規模を縮小した場合、患者数が減って収入も減少しますが、一方で診療にかかる経費も減少するため、収入が減った分赤字が増える、というわけではありません。これに比べて学費の低額化は、何も経費の減少を伴いませんので、収入が減少した分、そのまま収益が減るということになります。学費を下げたから授業の回数を減らす、というわけにはいかないですから。

大山 支出はそのまま収入だけが減るという形ですね。

金子 その通りです。つまり、学費を下げるためには、収入の減少に耐えられる財務体制を確立することが先で、そのためには建物や組織の再構築が必要であるということです。その経営判断があったからこそ、学費の低額化ではなく移転計画が学校法人として機関決定された。私はそのように理解しています。

大山 学内では意見統一がまだ十分ではないのではとの心配を寄せてくる会員がいます。いろいろな意見があると聞いていますが、その声をどのように吸い上げていっているのでしょうか。

金子 そうですね。どのようなことにも言えますが、様々な意見が出ることは人の集団として自然なことだと思います。それをどのように計画に反映していくかが重要ですが、例えば教授会で審議を行った際、原案に対して自由に意見を出してもらいました。そこで非常に多くの意見が出され、それらの建設的な意見を積極的に取り入れ、計画案をブラッ

シュアアップしています。このように一つずつ段階を踏んで、大学、法人それぞれの意思決定を行っています。

大山 適正に意思決定を行っているということですね。

金子 そうです。移転に関する意思決定の過程の詳細は同窓会報2009年8月号に掲載された座談会にて詳しく説明していますが、一般的に法人としての管理・経営的な判断は理事会が行い、学務に関する重要事項は教授会で決定します。理事会と教授会はお互い協調しながら大学を運営するというのが日本の大学に関する法制度です。ですので、水道橋移転計画を学校法人で機関決定する際も当然教授会に諮問があり、教授会として賛同する旨の答申をしています。

高橋 高い国家試験合格率が期待できるという、自信の言葉を是非聞きたいとのことですね。

金子 こういうことに関しては自信を持つことも重要ですが、フロンティアスピリットと言いますか、試練に挑んでいこうとする姿勢が良い結果をもたらすものであらうと思います。質の高い歯科医師の輩出が本学の使命ですので、常に合格率100%を目指して毎年努力を続けていきます。

大山 文部科学省からの補助金の削減、社会情勢や医療制度の変革による病院収入の減少など、もし起こった場合の財政的な対応は出来ているのかという心配も聞かれます。

金子 文部科学省からの補助金削減は、仮定の話ではありません。経常的な補助金の削減や、大学間の競争的な補助金への移行は既に行われています。どんなことが起こっても全く問題ないと断言できる組織は、特に昨今の不安定な経済状況の中では存在しないと思いますが、常に情報

収集、分析を怠らず、変化に対応できるように心がけています。

高橋 移転計画で想定されている借入はどのくらいで、利息はどのくらいと予測されているのでしょうか。その返済は安心して良いのでしょうか。

金子 これまでも、法人では大きな投資を必要とする事業において資金の借入を行って参りましたが、全て返済を完了しており、現時点で借入金はありません。これは決算書を大学のホームページで公開しておりますので、ご覧頂ければわかると思います。移転計画立案時に事業費の試算を行ったところ、これまで行ってきた事業と同様、借入金が必要になることはわかっています。その額や利息については理事会、評議員会の議決を要する事項ですので、移転計画の事業費を精査した上で決定することになります。もちろん、返済が不可能になるような借入計画は承認を得られませんし、立案することはありませんので、安心して頂いて結構です。

【終わりに】

高橋 本日の対談は長時間にわたるものになりましたが、一同窓の立場でいろいろお話を伺い金子学長の将来への熱い気持ちも十分理解できましたし、同窓の先生方の心配も大分解消されるのではと思います。大学と同窓との精神的な絆となる血脇記念ホール建設への寄付につきましては母校愛をもってできるだけ多くの同窓が協力できるよう努力いたします。大学と私たちとの有形の絆である同窓会室と同窓の使う施設、できればサロンと呼べるようなものを期待しながら本日の対談を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

支部のうごき

東京地域支部連合会



新年交歓会

平成22年1月16日(土)、午後6時30分より、例年の京王プラザホテルからホテルメトロポリタンエドモントに場所を移し、185名の会員と多数の来賓を集め開催された。

司会は富山雅史専務理事、遠藤孝平副会長が「新執行部は会員同士のコミュニケーションを大切にする会を目指す」と開会の辞を述べた。つづいて矢崎秀昭会長の挨拶では、120周年記念祝賀式典と水道橋への移転は東京地域支部連合会会員の支援・協力が不可欠であること。そして、他大学の同窓会をリードする同窓会を目指すとの挨拶があった。

次に来賓の挨拶があった。はじめに金子 讓学長が壇上に立ち、「120周年記念祝賀式典及び水道橋移転事業は円滑に進んでいる。今後もなお一層のご支援を頂きたい」との熱田俊之助理事長のメッセージが披露された。挨拶では、大学の志願者の厳しい現状、定員削減問題等困難な局面を乗り越えるためには、同窓会の支援が大きな活力になる。さらに若い歯科医師の資質が将来の歯科界を取り巻く環境を大きく左右する。本来であれば大学・病院・歯科医師会・

学会が一体なってこのような問題に取り組むところであるが、実現できていないのが現状である。ところで今年には歯科大学で最初の120周年を迎える。この1年また全力を尽くすとの挨拶があった。つづいて、大山萬夫東京歯科大学同窓会会長からは、各支部を訪問した際、校歌を皆で楽しく歌うことに感激し、改めて120年の歴史の重みを感じた。新たな理事を迎え、120年のプライドを持って母校支援、諸問題に対処して行きたいと述べた。高橋哲夫東京都歯科医師会副会長は、未入会会員問題・公益法人制度改革対策・レセプトオンライン化・都歯附属衛生士専門学校運営、等の諸問題に同窓会の力も借りて少しずつ前進したいと述べた。

その後、平成21年度受章(賞)者の顕彰では、顕彰者を代表し、池田

恒彦先生よりご挨拶を頂いた(別表)。次に退任役員に記念品の贈呈があり、代表し服部玄門先生よりご挨拶を頂いた。さらに、東京地域支部連合会新役員20名の紹介があった。鳴神保雄先生の乾杯で、懇親会が始まった。懇親会では、大曾根正史都歯連盟会長より昨年は政権交代という大きな出来事があったが、都歯連盟はスタンスを今後も変えず活動をするとの話があった。櫻井善忠都学歯会長は杉並区の小学校での給食後の歯磨き実施により、新型インフルエンザの罹患率や学級閉鎖が大幅に減少した実例を挙げ、口腔内の清掃が感染予防に大きな影響を与えることを力説された。懇親会は和やかな雰囲気の中に時が経ち、早速晴邦副会長の挨拶により閉会した。(市川弘道 記)

「平成 21年度受章(賞)者」(敬称略)

厚生労働大臣表彰

池田 恒彦(八南)

東京都功労者表彰(都知事表彰)

中山 友春(北多摩)

小川 学(杉並)



埼玉県支部



新年会開催

平成22年1月31日(日)、浦和ワシントンホテルにおいて東京歯科大学同窓会埼玉県支部新年会が開催されました。

当日は寒波が居座り肌寒い一日でしたが、60名を超える大勢の同窓が元気に新年のお祝いに集いました。

まずは新幹事長の高橋章雄先生の司会で幕が開き、副支部長春山良夫先生の開会の辞、成田賢二先生の支部長挨拶と続き、同窓会会長の大山萬夫先生からは同窓会の最近の動向、東京歯科大学副学長の井出吉信先生からはだいたい具体的ななってきた

た大学の水道橋移転について、スライドを使って説明を交えてご挨拶をいただきました。そしてこの度、埼玉県歯科医師会副会長に再選されました小杉国武先生よりご挨拶いただきました。また、埼玉県立大学教授の高久 悟先生、東京歯科大学教授の田崎雅和先生にもご出席いただきました。

諸報告の後いよいよ祝宴となり、まずは副支部長の粟生田友三先生の開会の辞、元埼玉県歯科医師会副会長氏家英峰先生の乾杯で開宴となりました。楽しく歓談の後、新年会恒例のビンゴゲーム大会で一喜一憂、

皆様それぞれにお土産を手にとりました。楽しいひとときも瞬く間に過ぎ、校歌斉唱の後、副支部長の馬橋丞男先生の閉会の辞にて再会を誓いつつお開きとなりました。

(海野 智 記)



葛 飾 支 部

活動報告

葛飾支部では、春夏秋冬、季節を感じながら親睦を深めています。現在会員数は20名と、やや小規模ではございますが、高野博子支部長の下、精力的に活動しております。

昨年は恒例の秋の勉強会を11月26日に葛飾区歯科医師会館にておこないました。

今回のテーマは「MTMと病院連携」と題して、水道橋病院矯正歯科医長の片田英憲先生にご講演をお願い致しました。片田先生は葛飾支部の準会員でもあり、講演後も和気あいあいと実践に即した質疑応答がおこなわれ、MTMの勘どころ、使いやすいプライヤーなど教科書からは解らない内容が聞け、有意義な時間が持てました。また、片田先生より「水道橋病院では、成人のMTMは本格矯正とは別の料金での治療も可能であり、今後さらに開業医の先生方と連携をとっていきたい」と、心強い話がありました。

私たち一般開業医も、日々の臨床



の中にMTMの応用を診療方針の中に入れていくことは臨床の幅が広がり、より良い医療の提供に繋がるので、専門医との連携を大切にしていきたいと話しました。

勉強会后、青戸の天ぷら割烹「うさぎ」で、揚げたての旬の食材をいただきながら美味しいお酒を心ゆくまで楽しみました。

また、去る2月6日には青戸の清寿司において支部新年会を開催いたしました。この冬一番といわれる寒波襲来の只中でしたが、13名の先生

に出席いただきました。歯科界を取り巻く状況は益々厳しさを増す中、相互の親睦を通して同窓会として団結してゆくことと、本学の創立120周年という記念すべき年を皆で盛り上げましょう、という高野支部長の挨拶の後、美味しい料理とお酒に舌鼓を打ちつつ、会員相互の親睦を図ることができました。

これからも益々親睦を深めて、TDCの伝統を受け継いでいきたいと思えます。(塚本裕介 記)



神奈川県西湘支部



12月12日(土)午後5時よりグランドホテル神奈中にて東京歯科大学同窓会神奈川西湘支部の定時総会が開催された。

総会は、秋山達郎専務理事の司会により、有近徳幸支部長の挨拶が行われた。続いて平成21年度会務報告、会計現況報告、議案審議として平成20年度決算、平成22年度事業計画(案)、予算(案)についても承認を得られた。

総会終了後には、神奈川県国民健

康保険診療報酬審査委員会副委員長の村上 汎先生より「最近の医療保険の取り扱いと高点数個別指導への対応について」と題した講演会が行われた。講演は時間を超えても足りないほど充実した内容で熱心に説明して頂き、大変有意義な内容でありました。

懇親会では、来賓として神奈川県連合同窓会会長の加藤木 健先生より、本学における最近の動向や水道橋への移転などについてお話を伺

い、つづいて乾杯となった。

歓談の中、小林眞一先生の喜寿のお祝いのお祝いのとして、ご子息である小林修一先生より眞一先生の近況についてお話しがあり、その後、新入会された早野圭吾先生の自己紹介などが披露された。そして、最後に恒例である校歌を皆で肩を取り合い斉唱し、同窓の懇親を深める事が出来た。

(鈴木 基 記)



静岡県支部



平成21年11月29日(日)ホテルアソシア静岡において静岡県支部第69回定時総会が開催されました。出席者は57名でした。

来賓として同窓会本部より副会長の神谷龍司先生、日本歯科医師会代議員の山下敏明先生、また学術講演会の講師として前東京歯科大学保存修復学講座教授の平井義人先生をお迎え致しました。

15時30分より定時総会が行われ、まず静岡県支部副支部長の工藤明久先生の開会の辞に始まり、8名の物故会員への弔慰黙祷を行い、支部長の浅野尹男先生の挨拶と続きました。その後来賓紹介、来賓挨拶、報告事項、協議事項が行われ、最後に報告事項の中の新入会員の紹介とそれぞれの先生の挨拶が行われ若い先生たちの初々しいその姿に癒されました。副支部長の足立文比古先生の閉会の辞により無事に定時総会は終了致しました。

予定通り16時30分より平井義人先生による演題：「歯科用レーザーの



現状及び審美修復」の講演会が行われました。近年、レーザーはめざましい発展を遂げ、医学領域においても基礎、臨床の両面での研究が行われ、多方面に応用されていること、その中でも歯科用レーザーはEr：YAGレーザー、CO₂レーザー、Nd：YAGレーザー、半導体レーザーなどが主として臨床に応用され、効果をあげていることなどをこれまでの苦労した話などを交えて分かりやすく講演していただきました。またもう一つのテーマとして、患者の審美に対する要求が大きい審

美歯科に関する審美修復材料の特性及び注意点を解説していただきました。

その後、懇親会場に場所を移動し、8つのテーブルに水道橋、三崎、市川、真間、菅野、稲毛、美浜、真砂と東歯に係わったネーミングが施され、卒業年度の近い順に座席が決めてありそれぞれの年代の思いつ話に花が咲きました。

最後に静岡市の小沢照雄先生のエールにより全員で肩を組み校歌を斉唱して盛況のうちに閉会となりました。(平川彰生 記)



愛知県支部

平成22年愛知県同窓会第1回役員会

1月31日(日)午後4時より、新執行部による第1回役員会が名古屋国際ホテルにて開催されました。長谷部雅志専務理事の進行のもと、成瀬 健副会長の開会の辞の後、山田 有新会長よりこれからの抱負、意気込みを力強く述べていただき、特に今年一番の課題として、高齢の会員の先生はもちろんのこと、若い会員の先生に多数参加してもらえるよう、学術を中心として魅力ある事業を役員会でよく考え同窓会の団結と繁栄を実現していこうと挨拶

されました。

因みに、愛知県支部の会員数は現在総勢213名(80歳以上42名・70歳以上80歳未満25名・70歳未満146名)です。多くの会員の先生方、特に卒業して間もない若い先生、愛知県に帰られて開業したての先生、学術講演会・総会などイベントの案内がありましたら出席のほどよろしく願いいたします。

会長挨拶のあと、各常任理事よりそれぞれの部署の事業計画についての報告があり、監査報告、議事、協議を経て、河野幸壺副会長の閉会の

辞にて第1回役員会は散会となりました。

本日の話題は、もっぱら若い会員の先生が参加しやすくするにはどうしたらよいかということと、もう一つは、恥ずかしながら愛知県で発生した「週刊朝日」のスクープ記事に関することでもちきりだったことを申し添えておきます。

以下に、平成22・23年愛知県同窓会役員の名と卒業年度を記します。(竹内英樹 記)

会 長	山田 有 (昭46)	平野 義雄 (昭60)	湯口 富保 (昭63)
副 会 長	成瀬 健 (昭50)	竹内 英樹 (昭59)	静間祐一郎 (平7)
	河野 幸壺 (昭51)	理 事 中川 重樹 (昭52)	白岩 克規 (平2)
専務理事	長谷部雅志 (昭56)	西村 臣史 (昭56)	鈴木 裕仁 (平2)
常任理事	辻川 雅介 (昭51)	澤 政樹 (平1)	日比 浩樹 (昭60)
	惣卜 俊明 (昭54)	伊藤 博之 (昭55)	監 事 穂積 良治 (昭44)
	波多野耕治 (昭58)	鈴木 正彦 (昭61)	夫馬 眞也 (昭44)
	青木 宏道 (昭57)	小関 健司 (平2)	竹内 博之 (昭47)
	橋本 雅範 (昭53)	奥平紳一郎 (昭56)	
	不破 金好 (昭58)	丹羽 克誌 (平4)	



三重県支部

平成22年2月21日(日)午後1時より三重県松阪市産業振興センターに於いて東京歯科大学同窓会三重県支部総会及び学術講演会が開催されました。当日は支部会員24名が出席、またご来賓として同窓会専務理事高橋義一先生、学術講演講師として摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科 石田 瞭先生にご出席いただきました。

総会は青 久昭副支部長の進行のもと開会、2名の物故会員への黙祷、宮田 保支部長の挨拶に続いてご来賓の同窓会専務理事 高橋義一先生より120周年記念事業、大学移転、同窓会の課題及び対応について

のお話がありました。その後武藤章美先生が議長に選出され、支部長より評議員会・東海地域支部連合会報告、続いて庶務報告、決算報告、議事が可決承認されました。当支部は本年役員改選の年であり、新支部長に柘植敏生先生が選任され新体制となりました。

学術講演は石田 瞭先生に、大学移転、入学試験・国家試験結果、千葉病院の最近の変化等の大学現状の説明の後、「歯科から行う摂食・嚥下リハビリテーション」と題してご講演頂きました。先生が現在取り組まれていることそして歯科従事者が行い得ることについて丁寧にわかり



やすくお話をして頂きました。

記念撮影後、和田金に会場を移しての懇親会は、中西亨之先生の乾杯の挨拶で始まり、久しぶりに美味しい肉に舌鼓を打ちながら和やかに楽しいひと時を過ごし午後6時に閉会となりました。(鈴木康之 記)



広島県支部

平成22年県支部総会

「開発か景観保全か」の裁判判決で話題になり、宮崎 駿監督の「崖の上のポニョ」のイメージモデルとなった、そして今年のNHKドラマ「龍馬伝」の主演坂本龍馬ゆかりの地と言われている福山市鞆町の「ホテル鷗風亭」で、平成22年1月17日に県支部総会が開催された。

母校口腔インプラント講座矢島安朝教授にご臨席いただき、地元平地茂雄理事による歓迎の言葉で開会した。

昨年3月に支部長に就任した高木勇藏新支部長より挨拶があり、県支部誌の初めての発行に順備中で、3

月31日の発刊をめざしている。その中の記事で明治44年卒業の駒井唯一先輩が元相撲取り「一氣嶋」と言う四股名で活躍し、その番付表が見つかったことも披露された。

恒例に従って開催地福山の藤本俊治先生が議長に指名され、平成22年東京歯科大学同窓会広島県支部総会がはじまった。高橋秀樹専務の報告の後、議事に入り、議案も全て承認された。

矢島教授の講演は「インプラント治療は変わる」—安全・確実な治療を目指して—と題しての内容で、簡潔で理解しやすいお話しであった。

仙酔島、弁天島を背景に記念写真

を撮影した後、「琴の街福山」宮城道夫の名曲「春の海」が生演奏で流れるなか懇親会場に移動し、清興として二曲奏でられた。林 克宏副支部長の挨拶そして今年七回目の年男を迎えられた黒河成海先生の音頭で乾杯となり、宴がはじまった。一年ぶりの総会で、時間が経つのも忘れ、あちこちのテーブルで話の輪が出来、2時間後に校歌を唄った後、ご当地小林万里恵先生が鞆の散策のお誘いをする閉会の辞で散会となった。その後15名が鞆の街を小林先生のガイドで散策し、懇親会後も鞆を堪能し、平成22年の県支部総会は終了した。 (横山晴洋 記)



熊本県支部

平成21年12月5日(土)熊本県歯科医師会館およびホテル日航熊本に於いて、熊本県支部蘇山会学術講演会・総会および懇親会が、来賓として同窓会副会長の江崎梅太郎先生、母校より学長の金子 譲先生をお迎えし、同窓25名の参加を得て開催されました。

学術講演会では、口腔インプラント学講座教授の矢島安朝先生を講師にお迎えし『インプラント医療の変遷と今後の展開 過去・現在・未来』と題した貴重なご講演を頂きました。大学の口腔インプラント学教室の概要と現状から始まり、開業医から送られてきた経過不良症例の供覧と分析をもとに、治療に際しての患者のリスクファクターの明確化とコンセンサスのとれている治療法とそうでないものの区別、さらに患者へのコミュニケーション力を強化する事の重要性を説かれました。開業医ではあまり目にする事のないインプラント治療の現状と課題を垣間見ることが出来、明日からの臨床に大



いに役立つ知識を得られました。

総会では江崎先生が同窓会の現況について、新入会員数よりも逝去会員数が上回り会員数が減少に転じており組織のコンパクト化を迫られている事などを報告されました。続いて、金子学長より母校の近況について、国家試験やオールデンタルの成績を合わせた総合評価で1位を獲得し、在校生が大変頑張っている状況を報告されると同時に、大学移転について現在の建物の維持にかかる膨大な経費と今後30年間の18歳人口の大幅な減少や大学の置かれている厳しい現況を総合した上での判断である事を随所で触れながら、進捗状況について鮮やかなCGを用いて約



30分間にわたり詳細に分かりやすく説明がなされました。引き続き、諸報告がなされた後協議に移り、添島義和支部長の任期満了に伴い次期支部長に緒方 進先生が満場一致で選出されました。

記念撮影の後懇親会となり、添島英輔先生の司会により、添島義和支部長の挨拶に引き続き江崎梅太郎先生の乾杯の音頭で開宴となりました。一同学生時代の思い出話や現状について終始和やかな雰囲気でお睦を深めました。冒頭に前田久香会先生による祝舞が披露され、不況を吹き飛ばす如く花を添えました。

(堀川 正 記)



ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

『わが町 神田』

東京都

明治時代、帝都・東京市の神田区は現在の千代田区歯科医師会とほぼ同じ地域にあたり、さらにいにしえの頃、本校水道橋病院所在の三崎町は江戸湾以前の入江畔の岬であったことがその町名の由来と聞いています。

神田は新しい物から古い物まで全てが混在した不思議な土地です。世界に誇る電気街、オタクの聖地と化した秋葉原は平日でも「お帰りなさいませ～ご主人様～萌え萌えキュン♪」と連呼するメイド姿に群がる客、韓国、中国からと思われる山盛りの電気製品を抱える客といった10年ほど前には全く見られなかった光景が広がります。そこから南に向かって歩くと昔の面影を残した「藪そば」「まつや」「いせ源」などの美味しい老舗街、神田駅周辺の昔ながらの赤提灯等で雑然としたスーダラ節系横丁、西に向かえば御茶の水～神保町一帯に広がる世界一の古本街、楽器街、スポーツ用品街、学舎と老若男女が集うカルチャータンです。

そして日本三大祭の一つで400年の歴史をもつ神田明神の「神田祭」(他は京都八坂神社の祇園祭、大阪

天満宮の天神祭)がここでの生活の基盤にあります。邪を払い平和と安寧の世を願い、2年に1度、5月初旬に御神体の三柱(大黒様、恵比寿様、平将門公)が氏子の町を鳳輦、神輿で周り、又神田、日本橋、大手町、丸の内、秋葉原の氏子町会108ヵ町の神輿約100基が30kmの道のりを1日かかりで宮入するという壮大な祭です。近年では萌え系神輿も現れ時代の変遷も感じさせられ、また残念ながら神田にはほとんど住民

がないため、神輿の担ぎ手は地域の企業の方や、神輿同好会の陸の方々に頼り、町会員は裏方というのが現状です。それでも当世風で徐々に若い女性の担ぎ手が増えつつあり賑わいに艶やかさを添えてくれます。我こそは是非神輿を担ぎたいという方は、地元で祭に係わる同窓・大井基道(S40卒)、吉井一雄(S51年卒)、小川 浩(S61年卒)、小川聡子(H4年卒)までご一報ください。また担ぐのはちょっと……という方は是非一度ご高覧を！ 次回は平成23年5月初旬に「天下祭」とも呼ばれる江戸の華が開きます。

(小川 浩(S61年卒)
聡子(H4年卒)記)

神田明神



クラス会だより

クラス会開催日程

いづみ会（昭和23年卒）

とき 平成22年5月22日（土）・23日（日）

ところ 帝国ホテル

黎明会

昭和57年卒

平成21年11月1日、東京ディズニーランドのClub33にて、平井義人先生をお迎えし33名の会員出席で、第11回黎明会が開催されました。25周年の時に会の開催は5年毎に東京で記念大会として行ない、その間に1度地方開催を入れることが決まりました。千葉県が早速、地方開催の担当になり（幹事長：齋藤 守）、千葉といえばディズニーランドで、となったわけです。

「夢と魔法の王国」での会ですので、講演会等は行わずゆっくり遊びましょうというコンセプトのもと、ご家族連れで朝からアトラクションを楽しんだ方々もいらっしゃいました。Club33は会員制のレストランで、高橋いつ子さんが開園以来の会員でいらしたため、今回使わせていただきました。入口にネームプレートもなく、インターホンで登録した名前を告げてドアを開けてもらうといった、大変隠れ家的な場所で、こんなところにこんなお店が、と皆さ

ん感激して下さいました。

総会では、矢崎欽也君、岩田和久君に黙祷を捧げ、ご冥福をお祈り致しました。その後会計報告等の議事が無事終了し、第2部の同窓会が始まりました。

平井先生からのお話を頂き、目にも鮮やかなビュッフェスタイルのお料理に舌鼓を打ち、ビール、ワインとお酒もすすみお腹がひと段落した頃、Club33の椎野さんからの出題によるクイズ大会が催されました。これがなかなか手強い問題でしたが、5問正解した方にはディズニーランドの商品券が賞品として渡されました。賞品は早速2次会の飲み物やお土産に変わったようです。

デザートタイムには、竹元ゆうきさんの素敵な歌を披露していただきました。曲はもちろんDisneyのメロディの中から。バックに流れるDVDとカラオケは黒澤秀一君の力作です。さすが、レディス名曲コンクールで奨励賞を受けられた声に、

皆うっとり聞き入ってしまいました。

予定の3時間はあっという間に過ぎ、次回、東京での開催を今村昭二郎君がお世話してくださることに決まりました。残念ながら風のためパレードは中止になってしまいましたが、解散後もラウンジでお喋り、或いはアトラクションに出かけたりとおよそ30年前にタイムスリップしたような夢と魔法の一日は楽しく過ぎて行きました。

千葉幹事：齋藤 守、山倉大紀、黒澤秀一、宮本克樹、飯島なおみ、小倉真由美、高橋いつ子、竹元ゆうき
(齋藤 守 記)



翔 仁 会

平成9年卒

翔仁会クラス会（平成9年卒）が平成21年11月8日、水道橋の東京ドームホテルにて開催されました。まず、午前11時より、B1F響の間にて総会を行い、増田浩之司会進行のもと大岡 洋会長から会務報告、奥原秀樹会計担当から会計報告をいただき、その後、今後の翔仁会運営にあたっての重要な会則について協議を行いました。閉会の辞を長谷川洋人副会長よりいただき総会は終了となりました。総会は1時間半にも及ぶ長時間になり、白熱した意見が飛び交う総会となりました。

その後、午後1時より、42Fペガサスの間に移動し、懇親会となりました。末田 茂監事担当司会のもと大岡会長の挨拶、ご来賓として学年主任をして頂いた腰原 好名誉教授にご挨拶をいただきました。腰原名誉教授は現在行っているご自分の趣味など現況報告もいただきながら大



変楽しい話となりました。その後、乾杯を副主任をして頂いたクラウン・ブリッジ補綴学講座主任教授の佐藤 亨教授にお願いしまして歓談がスタートいたしました。少々、時間が過ぎた後、佐藤教授より、現在の大学の現況、ならびに水道橋移転についてのお話をスライドを交えてお話頂きました。現況報告ではここ9年間は私立大学の中で国家試験合格率がトップを維持していること、また、最近の歯学体の成績が上がっており、今年は総合第2位になったことなど大学の後輩たちのがんばり



についてお話をいただき、水道橋移転についてはCGを交えて、ビルの内装イメージなど分かりやすくご説明いただきました。会は終盤をむかえ出席者一人一人から現況を報告して頂き、来月結婚が決まった者、子供が産まれた者、新しく開業する者、など大変楽しい、また、刺激になる話をいただきました。最後に、赤い顔の者も何人かいましたが、記念撮影を行いお開きとなりました。あっという間の2時間でしたが大変有意義な時間でした。

（増田浩之 記）



OB会・グループ・サークルだより

ワンダーフォーゲル部 OB会創立50周年記念行事報告



昨年の平成21年5月16日(土)、新宿高層ビルにある三井クラブに於いて、ワンゲルOB会創立50周年記念行事を開催、創設期のOBから衛生士のOG及び現役等を含む総勢81名の参加にて行われました。通常のOB会総会終了後に全員で写真撮影、引き続き懇親会が執り行われ、クラブ創設の須佐昭彦先生(昭和38年卒)による祝辞、中川勝洋先生(昭和42年卒)の乾杯のご発声後、54階からの東京の雄大な夜景を眺めつつ、歓談のひと時をすごしま

した。宴もたけなわ、今回のメインイベントである「記憶に残るワンゲルの記録」を上映、会場に複数のスクリーンを設置、着座したままで、田中祝副会長(昭和61年卒)がワンゲルの活動の歴史をパワーポイントにて編集した内容の上映、OB会ヨーロッパスキー合宿や飯島俊一先生(昭和53年卒)所有の現役当時の映像を約1時間堪能し、各テーブルではそれぞれの思い出に花が咲いたことのようなでした。

50周年と言う節目に当たり、クラ



ブ設立の草創期の諸先生方から現役諸兄まで一堂に会したことは、「半世紀」という時空を感じるひとときでした。20世紀半ばにスタートしたワンゲルというクラブも、21世紀の社会や、現在の山の変化のように、その取り巻く環境には様々に変革が起きている状況のようですが、クラブの是である「slow but steady」を基に、ひととき山で過ごした思い出とともに、クラブの記念行事を楽しく過ごすことができたと思っています。現在、50周年記念の資料を製作中です。

(昭和62年卒OB会長：浜野弘規 記)



庶務日誌

- 3月
- 1) 理事会
3月20日(土) 第2回理事会
- 2) 委員会
3月1日(月) 総務会
1日(月) 学術部委員会 (運営委員会)
6日(土) 学術部委員会 (運営委員会)
9日(火) 学術部委員会 (運営委員会)
10日(水) 渉外部委員会
12日(金) 広報部委員会 (会報編集)
15日(月) 学術部委員会 (プログラム委員会)
15日(月) 管理系ワーキンググループ
16日(火) 情報ネットワーク推進ワーキンググループ
16日(火) 学術部委員会 (運営委員会)
17日(水) 学術部委員会 (研究部委員会)
23日(火) 事業系ワーキンググループ
24日(水) 情報部委員会
25日(木) 学術部委員会 (運営委員会)
29日(月) 学術部委員会 (企画委員会)
30日(火) 学術部委員会 (運営委員会)
31日(水) 学術部委員会 (運営委員会)
- 3) 出張
3月6日(土) 青森県支部総会 矢崎副会長出席
学術講演会 講師・福田謙一准教授 (母校)
13日(土) 群馬県支部総会 大山会長出席
13日(土) 鹿児島県支部学術講演会 講師・田松裕一先生 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経病学講座人体構造解剖学分野)
25日(木) 東京歯科大学第115回卒業証書・学位記授与式 大山会長出席
- 4) 事業
3月7日(日) TDC 卒後研修セミナー [卒研フォーラム (No.1 先達に学ぶ『開業医としての楽しみ』)]
11日(木) 東歯関係日歯役員・代議員、都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会
24日(水) 新入会員オリエンテーション
高橋専務理事出席
30日(火) 六歯科大学歯学部同窓・校友会懇談会
- 4月
- 1) 理事会
4月21日(水) 第2回常任理事会
- 2) 委員会
4月1日(木) 厚生部委員会
2日(金) 保険部委員会
5日(月) 学術部委員会 (運営委員会)
7日(水) 学術部委員会
8日(木) 学術部委員会 (運営委員会)
9日(金) 学術部委員会 (プログラム委員会)
12日(月) 広報部委員会 (会報企画)
14日(水) 学術部委員会 (運営委員会)
15日(木) 特別委員会
16日(金) 学術部委員会 (将来検討B委員会)
16日(金) 厚生部委員会ゴルフ大会委員会
19日(月) 学術部委員会 (運営委員会)
20日(火) 学術部委員会 (研究部委員会)
22日(木) 学術部委員会 (運営委員会)
24日(土) 学術部委員会 (運営委員会)
26日(月) 学術部委員会 (企画委員会)
27日(火) 情報部委員会
28日(水) 学術部委員会 (運営委員会)
- 3) 出張
4月3日(土) 山形県支部総会 片倉副会長出席
学術講演会 講師・薬師寺 仁教授 (母校)
5日(月) 東京歯科大学平成22年度入学式 大山会長出席
10日(土) 宮城県支部総会 矢崎副会長出席
学術講演会 講師・福田謙一准教授 (母校)
- 4) 事業
4月25日(日) TDC 卒後研修セミナー開講式・[卒研セミナー (No.2 根管治療の経過不良を考える)]
- 5) 監査会
4月15日(木) 監査会

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

- | | | |
|-----------|--------------------------------|-----------|
| ●昭 28 卒 | 田 中 道 章 (81歳) | 22. 2. 1 |
| 日本橋支部 | 〒156-0052 世田谷区経堂2-27-10 | |
| ●昭 40 卒 | 雨 宮 宏 郎 (76歳) | 22. 2. 5 |
| 町田支部 | 〒194-0045 町田市南成瀬4-2-1 | |
| ●昭 22 卒 | 長 安 清 司 (86歳) | 22. 2. 8 |
| 兵庫県支部 | 〒661-0003 尼崎市富松町3-39-17 | |
| ●昭 38 卒 | 並 木 稔 (71歳) | 22. 2. 9 |
| 旭川支部 | 〒078-8234 旭川市豊岡四条6丁目2-1 | |
| ●昭 60 卒 | 小 出 元 美 (49歳) | 22. 2. 13 |
| 愛知県支部 | 〒441-8106 豊橋市弥生町西豊和5-3 | |
| ●昭 41 卒 | 田 中 秀 穂 (72歳) | 22. 2. 14 |
| 中信支部 | 〒399-0032 松本市芳川村井町574 | |
| ●昭 27 卒 | 庭 田 悟 士 (80歳) | 22. 2. 21 |
| 石川県支部 | 〒923-1121 能美市寺井町ツ88-3 | |
| ●昭 14 卒 | 小 平 正 夫 (95歳) | 22. 2. 24 |
| 栃木県支部 | 〒328-0124 栃木市野中町856-1 | |
| ●昭 47 卒 | 寺 田 好 一 郎 (64歳) | 22. 2. 26 |
| 静岡県支部 | 〒430-0942 浜松市元浜町88 | |
| ●昭 31 卒 | 高 橋 勇 (78歳) | 22. 2. 20 |
| 世田谷支部 | 〒157-0073 世田谷区砧4-24-16 | |
| ●昭 37 卒 | 小 坂 剛 也 (72歳) | 22. 2. 26 |
| 深川支部 | 〒135-0004 江東区森下1-12-12 | |
| ●昭 18.9 卒 | 佐 塚 樹 一 (87歳) | 22. 2. 28 |
| 静岡県支部 | 〒428-0021 島田市金谷河原376-44 | |
| ●昭 24 卒 | 長 内 滋 夫 (81歳) | 22. 2. 28 |
| 青森県支部 | 〒030-0812 青森市堤町2-17-6 | |
| ●昭 49 卒 | 小 林 吉 春 (59歳) | 22. 3. 4 |
| 山形県支部 | 〒990-0041 山形市緑町3-15-7 | |
| ●昭 19.9 卒 | 小 沼 孟 (86歳) | 22. 2. 8 |
| 千葉県支部 | 〒289-1732 山武郡横芝町横芝1567 | |
| ●昭 32 卒 | 青 木 藤 雄 (79歳) | 22. 2. 23 |
| 千葉県支部 | 〒273-0865 船橋市夏見4-19-26 | |
| ●昭 18.9 卒 | 森 尚 (86歳) | 22. 3. 3 |
| 中信支部 | 〒390-0827 松本市出川1-7-2 庄三コーポラスA3 | |
| ●昭 27 卒 | 下 山 崇 (81歳) | 22. 3. 8 |
| 福井県支部 | 〒914-0144 敦賀市桜ヶ丘町27-5-203 | |
| ●昭 26 卒 | 二階堂 胤 平 (88歳) | 22. 3. 13 |
| 渋谷支部 | 〒191-0065 日野市旭が丘5-3-11 | |
| ●昭 33 卒 | 星 野 衛 (76歳) | 22. 3. 15 |
| 函館支部 | 〒043-1113 桧山郡厚沢部町新田85-3 | |

- 昭 35 卒 本 多 信 圭 (73歳) 21. 7. 9
 横浜中央支部 〒251-0055 藤沢市南藤沢11-1 奥田ハイツ302
- 昭 20.9 卒 京 野 賢 (85歳) 21. 7. 1
 山形支部 〒221-0811 横浜市神奈川区齊藤分町42-36
- 昭 18.9 卒 三 浦 欣 一 (87歳) 22. 3. 21
 旭川支部 〒077-8032 旭川市旭町2条3丁目9-13

小坂剛也君を偲んで



平成22年2月26日17時24分、携帯に奥様から「14時50分に主人が亡くなりました。今から家に帰ります。」

との連絡を頂き、あまりにも早いご逝去に愕然としました。

1月25日の電話では、次の診察日は1月28日。頑張っているとのこと。安堵したのもつかの間、薬石効無く帰らぬ人となりました。

小坂君は進学課程の時からクラスを代表する存在で、我が十期会の会長を務めるなど、現在までクラス会の世話をしてくれました。勉強が良

く出来、真面目で、人格者で、正義感が強く、十期会の「顔」であり、血闘イズムの「歯科医師の前に人間たれ。」に相応しく、最高の東歯同窓の「鑑」でした。

地元では、同窓会支部長をはじめ、各種役員、都歯代議員などを歴任され、また、江東区のラジオ体操連盟会長として、80周年には、全国表彰を受けられ、テレビにも出演されました。

私たちは、入学以来半世紀以上、何でも話し合える生涯の友として誓い合った仲で、十期会総会の前後には、日程の許す限り足を伸ばし、旅を楽しんでいましたが、それも、今は叶いません。残念でなりません。

十期会 (昭和37年卒)

小坂君！……楽しかった思い出をたくさん残してくれて、ありがとうございました。

登喜夫人との間に、東歯大出身のご長女晃代さん、医科歯科大学医学部出身のご長男元宏君がおられ、優秀なご家族に恵まれており、彼の志はお子様立派に受け継がれております。どうぞ安らかにお眠り下さい。

小坂家の益々のご繁栄・ご活躍をお祈りするとともに、小坂君のご冥福を謹んでお祈りいたします。

合掌

(安藤三男、飯塚正人 記)

稲川英史君を偲んで



稲川君は'09年12月11日午後8時45分逝去されました。思えば入学以来50年、本音で向い合い付き合ってきた

仲間でした。10年前ががんが見つかり、幾度かの手術、抗がん剤治療の繰り返しでした。それは、穏やかな彼の外見とは全く対極にある壮絶な闘いだったのではないかと思います。

'08年春、拙宅でバラを鑑賞する

集いを催した折、彼は元気で食欲もあり楽しい団欒であったことが思い出されます。

'08年夏、仲間と一緒に北海道へ旅行した折、旅の先々で早朝ウォーキングをし、まるで奇跡という他にない回復ぶりを喜んだものでした。

'09年夏、嬉しい報せがありました。お嬢様が結婚されたことです。彼は娘とバージンロードを歩きたいと云っていたので、願いが叶って嬉しい思いでした。

'09年夏、彼が佐渡へ旅行がしたいとの希望で、計画が実行へと進み

踏志会 (昭和41年卒)

ましたが、体調不良のため参加できず、大変残念に思いました。

'09年晩秋、お見舞いに伺ったのですが、体調が思わしくなく会うことができず、その頃から、一層病状が悪化したものと思われます。

最後まで気力があり亡くなる前日には、御家族に別れのことばを伝えたと伺いました。彼はがんと真正面から立ち向かい最後まで戦い抜いた姿を思い、安らかでありますようお祈り致します。

合掌

(石塚嗣郎 記)

◆投稿規定

(1) 原稿締切り

原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

(2) 投稿様式

投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。

(3) 投稿字数

- ① 「すいどうばし」欄(随想、詩、短歌、時評など)は、1編1,600字程度
- ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3

段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。

③ 「追悼」は、500字程度

- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。

なお、掲載については委員会にご一任いただきます。

(5) 写真等の返却

写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。

写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧ください。

◆へんしゅうこうき

- ★ 今年も3月29日に第103回の国家試験の合格発表がありました。

我が東京歯科大学は総合(新卒プラス既卒者)で全国29大学のうち堂々の第3位です。私立歯科大学では2位を合格率で10%近く差をつけ第1位です。同窓として誠に誇らしく思います。もちろん学生も良くがんばりましたがそれを支える大学関係者の皆様ご苦労様でした。

- ★ 先日大学において大学関係者、父兄会役員、同窓会役員を対象とした120周年記念DVDの試写会に参加しました。改めて我が大学の歴史の長さ、明治維新の改革の精神が受け継がれていることを認識致しました。

その中で血脇守之助先生の動画映像に感激しました。大学の資料室にあったこのことです。血脇先生は明治維新後の日本に、世界にも誇れるような歯科教育のできる場所を作ることを目標として、初めての歯科専門学校、大学、また大学院と段階を踏み、その情熱は単に大学だけではなく日本全体の歯科医療の向上までもという壮大な夢を成し遂げました。そんな大きな志を常に抱いて努力をされていたことが映像から伝わってきました。記念式典にはそのダイジェスト版が上映されるそうです。

是非皆さんも120周年記念行事にご参加下さい。

- ★ 今年も保険改正がありました。歯科は+2.09%の改訂が行われました。

実際には下がった項目やまとめられた項目もあり、また明細書の発行や文書の発行や院内掲示項目と何かと拘束が多くなった事も事実です。事務量も増え実質増点につながるかどうか少し工夫が必要のように思います。

- ★ 同窓会改革が始まり若手同窓会会員の同窓会離れについても問題となっております。新入会員(卒業生)へのオリエンテーションも同窓会支部活動の様子や同窓会への参加を促すために今回はスライドを使い分かりやすく説明がされました。また若手対象の学術講演会の説明、アンケートによる若手が何を求めているかのリサーチもしました。改革も小さな事からこつこつと…… (白田 準 記)

広報部委員会

委員長 三友 和夫
委員 小林 伯男
委員 東郷 幹夫
委員 小池 修
委員 古澤 成博
委員 尾崎 圭子
委員 福井 雅之
委員 島田 篤

広報部担当理事 白田 準

平成22年4月20日 印刷

平成22年4月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第375号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 白 田 準

編集人 三 友 和 夫

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

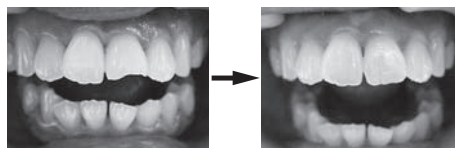
電話 (03) 3952-5651 (代)

No.4 『歯の審美的回復』

～レジンダイレクトフィリングとホワイトニング～

6月13日(日) 9:30～16:30

講師：河田 英司(東歯大・歯科理工) 受講料：5万円(実習器材費2万円含む)
天谷 哲也(東歯大・歯科保存) 定員：40名
江下 義之(花王・パーソナルヘルスケア研究所)



<実習内容>.....
●前歯および白歯部の隣接面窩洞に対する効果的なダイレクトレジンフィリングの実際

No.5 『安全で確実なインプラントをするために』

～知っておきたい知識と手技～

7月10日(土) 10:00～16:30

7月11日(日) 9:30～16:30

講師：矢島 安朝(東歯大・口腔インプラント) 阿部 伸一(東歯大・解剖) 受講料：13万円(実習器材費7万円含む)
関根 秀志(東歯大・口健・インプラント) 藤関 雅嗣(東京都・開業) 定員：30名



<実習内容>.....
●治療計画(埋入設計実習)
●無歯顎模型での埋入実習
●無歯顎模型での印象用コーピングを用いたピックアップ印象実習
●有歯肉型埋入用顎模型での歯肉切開・剥離・ステントを用いたインプラント体の埋入、縫合までの総合実習

■使用した模型・インプラント体はお持ち帰りいただけます。

No.6 『SPTの実際』

～エビデンスに基づいたメンテナンスとは?～

9月12日(日) 9:30～16:30

講師：中川 種昭(慶應・医・歯口外) 高柳 篤史(埼玉県・開業) 受講料：1万5千円(歯科医師・歯科衛生士共)
石原 和幸(東歯大・微生物) 定員：80名



<講演内容>.....
●SPTの実際 ●歯周治療、SPTの細菌学的エビデンス
●SPTの常識・非常識 行動科学的見地から

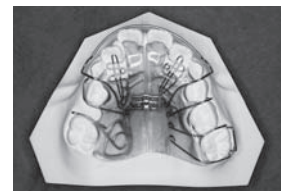
■歯科衛生士のかたの受講もお待ちしています。

No.7 『咬合育成の基礎と臨床』

～床矯正装置入門～

10月17日(日) 9:00～16:30

講師：末石 研二(東歯大・矯正) 福本 恵吾(東京都・開業) 受講料：7万円(実習器材費3万5千円含む)
西井 康(東歯大・矯正) 定員：50名



<講演内容>.....
●咬合育成、成長発育の基礎知識、床矯正装置について
<実習内容>.....
●症例分析と診断 ●床矯正装置の設計、調整法など

■使用した床矯正装置はお持ち帰りいただけます。

☆会場：血脳記念ホール 東京都千代田区三崎町2-9-18 東京歯科大学水道橋校舎TDCビル2F

※上記会場の駐車場はご用意できません。お車でのご来場はご遠慮下さい。

☆受講手続き：同窓会ホームページより受講申し込み書をダウンロードしてください。

URL：http://www.tdc-alumni.jp

詳細・プログラムにつきましては、FAXまたは郵送にてご請求下さい。

☆申し込み時の注意事項：

●卒研セミナーは当日の受講受付はいたしません。

●受付は先着順とし、お申し込み受付後、振込用紙(銀行・郵便局両用)をお送りします。受講料のご入金は振込み用紙送付後2週間以内とさせていただきます。入金確認をもって受講受付完了とし、後日受講票および受講案内をお送りいたします。なお、領収書は払込金受領証をもってかえさせていただきます。

※受講料は、消費税込みとなっております。

※東京歯科大学同窓会は、本セミナーの参加申し込みにより取得した個人情報を厳重に管理し、予めご本人の同意を得ることなく、第三者に提供することはいたしません。

東京歯科大学同窓会での個人情報の利用目的は下記の通りです。

1. 本セミナーの運営および、それにとまご連絡。
2. 東京歯科大学同窓会からの各種情報のご案内。

☆東京歯科大学同窓会HP学術部のコーナーをご参照ください……http://www.tdc-alumni.jp

東京歯科大学同窓会事務局

東京歯科大学同窓会 会長/大山萬夫

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

TEL 03-5275-1761 FAX 03-3264-4859